郡市	総数	現住人口 男	現住人口 女	現住戸数	現住戸数一戸に付現住人口
大正十一年	二、三五九、三一五	一、二三九、六三五	一、一二〇、八三〇	五〇〇、八三〇	四、八五
同十二年	二、三九九、一三六	一、二六四、八一六	一、一三四、三二〇	五二一、三五二	四、六〇
同十三年	二、六六六、八一七	一、三九二、三六一	一、二七四、四五六	五三三、三八三	四、九五
同十四年	二、三二四、四三〇	一、二三七、七一八	一、二八六、六九二	五〇七、六四五	四、九五
昭和元年	二、三五三、八七九	一、二四〇、三一三	一、二一三、五六六	五一七、七四五	四、九六
同二年	二、六二三、三四六	一、三四〇、八四〇	一、二八二、五〇六	五二九、三〇八	四、九六
同三年	二、六六六、六九三	一、三二六、八七四	一、三四〇、三九九	五四〇、五九	四、九五
同四年	二、七二六、八八一	一、三五六、七〇一	一、三七〇、一八〇	五五〇、六三一	四、九四

（昭和四年十二月末日現在）

郡市	総数	現住人口 男	現住人口 女	現住戸数	現住戸数一戸に付現住人口
神戸市	八〇四、七八三	四二一、二八五	三八三、四九八	一八九、五六四	四、二五
姫路市	六一、六三五	三一、四四四	二九、一八一	一四、一四八	四、三六
尼崎市	三〇、三五八	二五、一七五	二四、一八三	一〇、三四一	四、八六
明石市	四三、九五九	二二、〇三五	二一、九二四	八、三一二	五、一六

郡市	総数	現住人口 男	現住人口 女	現住戸数	現住戸数一戸に付現住人口
西宮市	四一、四一二	二一、〇〇八	二〇、四〇四	八、九三四	四、六四
武庫郡	一三一、三四〇	七三、九六六	五七、三七四	三二、三六八	四、〇七
川邊郡	一二、八四一	六、三九八	六、四四三	二、八九八	四、四八
有馬郡	三四、一三六	一七、三三一	一六、八〇五	七、六三五	四、四八
明石郡	六三、三四四	三二、四三三	三一、〇一一	一四、〇四九	四、四九
美囊郡	三四、六一四	一七、九一九	一六、六九五	七、七四〇	四、四九
加東郡	三五、一七九	一七、七四〇	一七、四三九	七、九八〇	四、四九
多可郡	三五、七七七	一七、八一〇	一七、九六七	七、九八六	四、四八
加西郡	三四、二九八	一七、一三〇	一七、一六八	七、九八六	四、三七
加古郡	八六、七〇一	四三、八三五	四二、八六六	一九、五八二	四、五二
印南郡	六〇、八四三	三〇、四九一	二九、三五二	一三、四〇九	四、四八
飾磨郡	一二三、二八三	六一、三三九	六一、九四四	二七、九六六	四、四九
神崎郡	八九、三八〇	四四、九〇〇	四四、四八〇	一九、九六四	四、四九
揖保郡	六六、四四三	三三、八五九	三二、五八四	一四、七四二	四、四八
赤穂郡	七五、九八六	三七、四五四	三八、五三二	一六、七四二	四、四九

佐用郡	三〇、八五五	一五、七三九	一五、一一六	五、六六七	五・四四
宍粟郡	六一、二四〇	三一、六六八	二九、五七二	一〇、九五二	五・五九
城崎郡	八四、四〇〇	四二、一八六	四二、二一四	一五、五六三	五・四二
出石郡	二六、四二六	一三、一九二	一三、二三四	四、八七三	五・四二
養父郡	五一、三一〇	二六、三八七	二五、九二五	九、五三〇	五・四九
朝來郡	三六、一四五	一八、三五二	一七、七九三	七、〇三三	五・一四
美方郡	四九、五二〇	二四、九一一	二四、六〇九	八、九四八	五・五三
氷上郡	七七、六〇七	三九、七二一	三七、八八六	一五、一八二	五・一一
多紀郡	五一、一三〇	二五、五九五	二五、五三五	九、七三六	五・二五
津名郡	一三〇、一八四	六五、四七四	六四、七一〇	二五、二九八	五・一一
三原郡	七四、九二一	三八、五六九	三六、三五二	一二、九一二	五・八一
計	二、七一六、八八一	一、三八〇、一八〇	一、三三六、七〇一	五五〇、六三一	四・九四

人口動態 昭和四年の人口動態は左の通りで、尙本縣在留外國人總數は九千四百三十二人其の內支那六千二百四十三人、英吉利八百五十五人、米國四百四十五人、獨逸三百八十四人、印度二百六人、露西亞百九十一人、瑞西百三十人、葡萄牙百十三人、佛蘭西百人、和

蘭八十五人、瑞典五十五人、加奈陀四十六人、其の他五百七十九人である。

	(昭和四年)
結婚	一八、九三七人
離婚	一、六八八
出生	八一、四四四
死亡	四八、五六〇
死產	四、九〇六

沿革

明治四年十一月兵庫縣を置き神田孝平氏が大參事として就任せられてから五十九年になるが、其の間に於ける變遷及歷代長官の氏名を揭げると左の通りである。

豐岡縣 明治四年十一月二日
- 但馬國一圓
- 丹波國の內多紀、氷上、天田の三郡

(天田郡は明治九・八・二京都府へ)

兵庫縣 明治九年八月二十一日

- 飾磨縣 明治四年十一月九日
  - 播磨國一圓（明治四・二・八迄は姫路縣と稱せり）
- 名東縣 明治四年十一月十五日
  - 阿波國一圓（明治九・八・二一高知縣へ）
  - 淡路國一圓
- 兵庫縣 明治四年十一月二十日
  - 攝津の國八部及菟原、武庫、川邊、有馬の四郡

歴代の長官

任官年月	氏名	任官年月	氏名
明治元・五	任官 伊藤俊介（博文）	明治二四・六	任官 周布公平
同二・四〃	久我維麿	同三〇・四〃	大森鐘一
同二・五〃	中島錫胤	同三三・一〇〃	服部一三
同二・六〃	陸海陽之助（宗光）	大正五・四〃	有吉忠一
同二・八〃	税所長藏（篤）	同一一・六〃	折原巳一郎
同三・一〇〃	中山信彬	同一二・一〇〃	平塚廣義
同四・一一〃	神田孝平	同一四・九〃	山縣治郎
同九・九〃	森岡正純	昭和二・五〃	長延連
同一八・四〃	内海忠勝	同四・七〃	高橋守雄
同二二・一二〃	林董		

行政區劃

本縣の市は神戸、姫路、尼崎、明石、西宮の五市で、郡は武庫、川邊、有馬（以上攝津國）、明石、美嚢、加東、多可、加西、加古、印南、飾磨、神崎、揖保、赤穗、佐用、宍粟（以上播磨國）、城崎、出石、養父、朝來、美方（以上但馬國）、氷上、多紀（以上丹波國）、津名、三原（以上淡路國）の二十五郡、町は六十七、村三百四十八、この總面積五百三十九方里である。

農業

昭和四年末現在に於ける本縣の耕地總段別は十三萬二千九十一町で内田十一萬二百十四

町歩、畑二萬一千八百七十七町歩である。之を農家戸數十八萬六千四百六十八戸に對比すると、一戸當り田に於て約六段歩、畑に於て約一段歩に相當するのである。

農産物總價額は壹億參千九拾八萬餘圓で內米價は六千五百七拾參萬八千餘圓で各種農産物中其の首位を占め之に亞ぐものは蠶繭類の壹千九百九拾五萬壹千餘圓、麥の壹千四百萬貳千餘圓である。

土性は概れ壤土質で地味肥沃、氣候溫和、各種の植物能く繁茂し一般農作物の生育頗る良好で實に農業上天惠の好適地である。南播磨地方は五穀豐饒で殊に米は其の產額二百三十萬石に達し品質の良好なる事播州米又は淡路米として其の聲價高く、北丹波、但馬地方は比較的平野に乏しいが桑、杞柳、果樹等の植栽に適し殊に養蠶は古來より盛で近時著しき發達の域に達して居る。

本縣は明治二十七年に始めて明石市に農事試驗場を設置して試驗研究を行ひ、同四十一年穀物檢查所を設けて產米參の改良を促し、又自作農創成により農業經營の安固及農村發達の堅實を期し、小作爭議の調停に努め、其の他農業倉庫の設置奬勵、養蠶業及桑園の改良、耕地整理の遂行、品種の改良、副業の奬勵等連年此等事業の助長奬勵を怠らず將來益々完全なる發達と農村の福利を期しつゝある。

本縣の農家戸數並に各種農產物につき表示すれば左の通りで昭和四年の生產價額は農家一戸に付七百貳圓、現住一戸に付貳百參拾八圓となる。

		總價額	米	麥	食用農產物	果實蔬菜
農產物價額	昭和二年	一三六、四三九、三二六圓	七四、〇九一、八三三圓	一三、三五九、五二一圓	二、六六二、一二一圓	八、七二五、三五四圓
同 三年		一三三、三二二、七〇八	七〇〇四九、一一八	一四、一三〇、七五〇	二、七三六、九六九	八、六八一、一九六
同 四年		一三〇、九八〇、七二五	六五、七三八、四一九	一四〇〇三、一一九	二、六三七、四〇四	八、九九三、七九六

		工藝農產物	苗木及觀賞植物	製茶	蘭
農產物價額	昭和二年	一、六六五、八八九圓	四七九、六〇七圓	二五六、二〇六圓	八、七一〇、八三七圓
同 三年		一、八〇三、三八三	五四三、一八二	三五三、八三〇	一〇、三六八、七〇九
同 四年		一、七八五、六六六	五四五、二七五	四六一、一三二	二九四、三九九

		蠶種	繭絲類	眞綿	其の他	農家一戸に付	現住一戸に付
農產物價額	昭和二年	三一二、三六一圓	二一、一〇九、五〇九圓	四〇、四六九圓	四、三六〇、九六二圓	七三五圓	二六円
同 三年		四六六、六二三	一九、二三二、九七六	一五、〇二六	三、六八四、一一六	七一三	二四五
同 四年		四七二、九六八	一九、九五一、一四三	一四、三九五	三、六六〇、四六一	七〇三	二三八

（其の他には藁製品及置潤を含む）

		戸数	自作小作別		専業兼業別	
			自作	小作（自作兼小作）	専業	兼業
農戸家数	昭和二年	一八五、三一七	七六、三三三	一〇七、四五九	七八、〇六八	一〇七、二四九
同	三年	一八五、八六〇	七七、三四三	一〇五、七九九	七〇、一〇一	一一五、七五九
同	四年	一八六、四六八	七九、一四六	一〇七、三四八	六八、七三四	一一七、七三四

耕作地廣狭別

		戸数	自作小作別		専業兼業別	
			自作	小作（自作兼小作）	専業	兼業
五段未満	昭和二年	七九、四四九	七八、三六二	一、九九二	二九五	二
	三年	八〇、四一三	七八、一九〇	一、七六五	二六〇	七五
	四年	八〇、三三五	七八、一八七	一、九三一	三〇六	六〇
五段以上一町以上	昭和二年	七八、三六三	二五、四〇八	五二、九五五	二九五	二一
	三年	七八、一九〇	二五、一四九	五二、七六五	二六〇	七五
	四年	七八、一八七	二五、六二八	五二、九三一	三〇六	六〇
一町以上二町以上	昭和二年	一、九九二	一、九四二	五〇	二九五	二一
	三年	一、七六五	一、七二五	四〇	二六〇	七五
	四年	一、九三一	一、八九二	三九	三〇六	六〇
二町以上三町以上	昭和二年	二九五	二八九	六	二九五	二一
	三年	二六〇	二五五	五	二六〇	七五
	四年	三〇六	三〇〇	六	三〇六	六〇
三町以上五町以上	昭和二年	二一	二一	〇	二一	二一
	三年	七五	七五	〇	七五	七五
	四年	六〇	六〇	〇	六〇	六〇

		戸数	作付段別	収穫高	価額	一段歩収穫高
大麦	昭和二年	一八五、三一七	一〇七、四五九	一、六五四	七八、〇六八	一、六五
	三年	一八五、八六〇	一〇五、七九九	一、七六一	七〇、一〇一	一、六四
	四年	一八六、四六八	一〇七、三四八	一、六四七	六八、七三四	一、六四
裸麦	昭和二年	七九、四四九	一、九九二	二、六六一	一、〇四四	一、三一
	三年	八〇、四一三	一、七六五	二、三四七	一、〇九八	一、三三
	四年	八〇、三三五	一、九三一	二、五九一	一、一五六	一、三二
小麦	昭和二年	七八、三六三	五二、九五五	七九、四三三	二九、一一五	一、五〇
	三年	七八、一九〇	五二、七六五	七九、一四八	三〇、一〇七	一、五〇
	四年	七八、一八七	五二、九三一	七九、四九六	三〇、二〇八	一、五〇
陸稲	昭和二年	一、九九二	五〇	七五	二九	一、五〇
	三年	一、七六五	四〇	五九	二三	一、四八
	四年	一、九三一	三九	五八	二三	一、四八
水稲	昭和二年	二九五	六	九	三	一、五〇
	三年	二六〇	五	七	二	一、四〇
	四年	三〇六	六	九	三	一、五〇
糯米	昭和二年	二一	〇	〇	〇	一、五〇
	三年	七五	〇	一	〇	一、五〇
	四年	六〇	〇	一	〇	一、五〇

		戸数	作付段別	収穫高	価額	一段歩収穫高
糯米	昭和二年	二九五	六	九	三	一、五〇
	三年	二六〇	五	七	二	一、四〇
	四年	三〇六	六	九	三	一、五〇
粳米	昭和二年	二一	〇	〇	〇	一、五〇
	三年	七五	〇	一	〇	一、五〇
	四年	六〇	〇	一	〇	一、五〇
大豆	昭和二年	一八五、三一七	三、〇三二、七	二七、九三三、二	一、三七九、一四一	九、一八
	三年	一八五、八六〇	三、一一〇、六	二九、一一〇、六	一、四一九、一四一	九、一八
	四年	一八六、四六八	三、〇八〇、八	二九、一一〇、六	一、四一九、一四一	九、一八
小豆	昭和二年	一八五、三一七	一、九七六、五	一四、八二二、五	一、一八九、一四一	七、五〇
	三年	一八五、八六〇	三、〇八〇、八	二三、一一〇、六	一、四一九、一四一	七、五〇
	四年	一八六、四六八	三、〇八〇、八	二三、一一〇、六	一、四一九、一四一	七、五〇
甘藷	昭和二年	一八五、三一七	一、九七六、五	一四、八二二、五	一、一八九、一四一	七、五〇
	三年	一八五、八六〇	二、一一五、七	一五、八六八、〇	一、二七一、一四一	七、五〇
	四年	一八六、四六八	二、一一五、七	一五、八六八、〇	一、二七一、一四一	七、五〇
馬鈴薯	昭和二年	一八五、三一七	二、〇三八、九	一五、二九二、五	一、一四一、一四一	七、五〇
	三年	一八五、八六〇	二、一一五、七	一五、八六八、〇	一、二七一、一四一	七、五〇
	四年	一八六、四六八	二、一一五、七	一五、八六八、〇	一、二七一、一四一	七、五〇
西瓜	昭和二年	一八五、三一七	六、七七、五	五〇、八二五、〇	一、三四一、一四一	七、五〇
	三年	一八五、八六〇	七、一八、七	五三、八六五、〇	一、四一九、一四一	七、五〇
	四年	一八六、四六八	七、一八、七	五三、八六五、〇	一、四一九、一四一	七、五〇
蔬菜	昭和二年	一八五、三一七	二、〇三八、九	一五、二九二、五	一、一四一、一四一	七、五〇
	三年	一八五、八六〇	二、一一五、七	一五、八六八、〇	一、二七一、一四一	七、五〇
	四年	一八六、四六八	二、一一五、七	一五、八六八、〇	一、二七一、一四一	七、五〇

農産物（昭和四年）

農事調査	胡瓜	柿	佛掌薯	小豆	牛蒡	南瓜	隠元豆	胡瓜	琉球甘藷	慈姑	千
作付段別	町										
	三四七・一	一四五・三	一八一・七	二一二・四	一一一六・七	三一六・一	二三四・八	一二三・五	一三二・四	一三五二・二	一三五〇・四
收穫高	石	貫	貫	石	貫	貫	石	貫	貫	貫	貫
	四五九・三	四三・八	三四六・四	一〇一・四	八二・三	二三・五	一六九・六	三一九・七	五八・二	七九・〇	一一三・八	—
價額	円										
	六四・七一	五二・一四一	五六・七四九	七〇・六八一	九七・〇〇〇	二八・二一〇	五四〇・〇四六	三〇・一三〇	二九・〇四〇	三五・九五〇	六七・七四三	二〇・八三七
一段歩收穫高	石	貫	貫	石	貫	貫	石	貫	貫	貫	貫	貫
	一・〇三八	〇・八五一	二・九九	三三五	二七二	七〇	二九八	八	一・〇一一	四八五	一・〇一一	一九一

農産物

蕃薯	蓮根	生薑	大麻	蔬菜	三極	豌豆	菜種	蕎麥	甘藍	豇豆	切干大根	蕪
作付段別	町											
	四五九・三	四三・八	三四六・四	一〇一・四	八二・三	二三・五	一六九・六	三一九・七	五八・二	七九・〇	一一三・八	—
收穫高	石	貫	貫	石	貫	貫	石	貫	貫	貫	貫	貫
	五六〇三	五九〇八	一三〇八〇	一二三・一四六	二七九・一〇三	三一四・九	一四一・二	三〇八・二	三〇〇・七一	三〇・一三	二七・二	二七・五
價額	円											
	六四・七一一	五二・一四一	五六・七四九	七〇・六八一	九七・〇〇〇	二八・二一〇	五四〇・〇四六	三〇・一三〇	二九・〇四〇	三五・九五〇	六七・七四三	二〇・八三七
一段歩收穫高	石	貫	貫	石	貫	貫	石	貫	貫	貫	貫	貫
	一・〇三八	〇・八五一	二・九九	三三五	二七二	七〇	二九八	八	一・〇一一	四八五	一・〇一一	一九一

蕗	食用百合	茱萸	椿	三葉	黍	胡麻	分	生椿	梔	枇杷	桃	蜜柑	夏蜜柑
四〇・五	一五・一	七一・九	六一・〇	一六・七	七八・五	六三・八	二四〇・五	三四〇・二三六	三二〇・六八	八九四貫	一八二・三四四貫	三一・七五〇石	八六八	六三・五	二四〇・五	三四〇・二三六	三二〇・六八	八九四貫	一八二・三四四貫	三一・七五〇石	八六八	六三・五	二四〇・五
一五三	一・二四四貫	三〇貫	一・〇六貫	一五・六八六	一〇・二八四	〇・六八二貫	三四四	三一・二八九	三四・六一九	一〇・六四九	一五・六八六	一〇・二八四	〇・六八二貫	三四四	三一・二八九	三四・六一九	一〇・六四九	一五・六八六	一〇・二八四	〇・六八二貫	三四四	三一・二八九	三四・六一九

（昭和四年）

蕗	食用百合	茱萸	椿	三葉	黍	胡麻	分	生椿	梔	枇杷	桃	蜜柑	夏蜜柑
四〇・五	一五・一	七一・九	六一・〇	一六・七	七八・五	六三・八	二四〇・五	三四〇・二三六	三二〇・六八	八九四貫	一八二・三四四貫	三一・七五〇石	八六八	六三・五	二四〇・五	三四〇・二三六	三二〇・六八	八九四貫	一八二・三四四貫	三一・七五〇石	八六八	六三・五	二四〇・五
一五三	一・二四四貫	三〇貫	一・〇六貫	一五・六八六	一〇・二八四	〇・六八二貫	三四四	三一・二八九	三四・六一九	一〇・六四九	一五・六八六	一〇・二八四	〇・六八二貫	三四四	三一・二八九	三四・六一九	一〇・六四九	一五・六八六	一〇・二八四	〇・六八二貫	三四四	三一・二八九	三四・六一九

樹数 七四九・二三四本 | 収穫高 二・四五七・三五五石 | 価額 三四〇・九二一円

樹数 七四九・二三四本 | 収穫高 二・四五七・三五五石 | 価額 三四〇・九二一円

梨	乾葡萄	柿	果実（昭和四年）
			樹数 七〇・八二三本
			収穫高 一五九・七四七貫
			価額 六五・七二一円
	無花果		樹数 一本
			収穫高 一九四・九九五貫
			価額 九〇・八六九円
	ネーブルオレンジ		樹数 一六五・八二九本
			収穫高 二二七・八〇八貫
			価額 一〇・九九九円
李			樹数 五七・七六七本
			収穫高 一四七・八五〇貫
			価額 七三・三八九円
			樹数 三五・一一七本
			収穫高 三五・一一七貫
			価額 一六・六〇九円
			樹数 八・八九七本
			収穫高 四六・三貫
			価額 六・六〇円

苗木（昭和四年）

桑苗 数量 四一五六・六二八本 | 価額 一〇三・九八七円

実苗 数量 七四三・四四三本 | 価額 四三・四九二円

製茶（昭和四年）

茶畑戸数 六五四・二町 | 製茶・茶数量 一四八五・六六一貫

茶・茶数 総数 一六五・八二九貫 | 産額 玉露 九四貫 | 煎茶 六六・一六〇貫 | 番茶 八〇・三四〇貫 | 其の他 一・九七三貫 | 価額 二九四・五九九円

桑（昭和四年）
畑 総數 一〇、三五八・二町 模刈中刈高刈立通 四、〇八六・四町 二三五・九町 二四六・五町 五、九六九・四町 九、〇九九・二町
其の他 八〇四・七町 六八四・三町

蠶種製造及掃立枚數（昭和四年）
蠶種製造 實人員 二四 蛾數 七、三四九、六二四頭 價額 四七二、九六八円
掃立枚數 二〇八、三三九枚 一二三、八四一枚 八四、四九八枚

蠶戸數（昭和四年）
春蠶 四二、二九〇 夏秋蠶 三七、一九二 實戸數 四四、一六一
現住百戸に付實戸數 八

收繭高
總數 春蠶 一二、一六八、六〇三貫 上繭 一〇七、八五三貫 玉繭 三七、六三〇貫 屑繭 三二、三一九貫
夏秋蠶 三六八、三五〇 四三五、一二七 五九、〇八五 三二、六〇八
實戸數一に付收繭 三七、七一三貫
繭價額 春蠶 八、九〇九、三九八円 夏秋蠶 七七六円
繭一貫に付價額 七七円綫 六八三

製絲戸數（昭和四年）
器械絲 三八
座繰絲 三二
玉絲 五

製絲 十釜未滿 二十釜未滿 百釜未滿 百釜以上 總數
繰絲釜數 工女 五 二 一〇 五五 四、三八二 五、九五二
三 — 三 三五 七〇七 七〇三
一 — 一 六 四二 四四

生絲及眞綿（昭和四年）
生絲總價額 二、一四二、八七四円
其の他 一、九九五、一四三円
其の數量 四三、一七九貫
其の價額 二、〇二七円

生絲 駄斗絲 數量 一、九四三、八五六貫 價額 一、九八八、九八九円
生皮苧 數量 三三、八一七貫 價額 三九四、七九九円
眞綿 製造戸數 四八三 數量 一四、三九五貫 價額 一四三、九五円

畜産

本縣は管轄地域廣濶で其の中央部を連亘せる中國山脈のある爲地形は自ら海に向つて

丘陵的山野を展開して居る結果、家畜の放牧にも家禽の養殖にも到る處天與の好適地が多い、從つて專業に或は副業に畜産の振興は地の利を得て益々發達し將來愈々有望である。

家畜　家畜の主なるものは牛で馬及豚之に亞ぎ、縣は明治三十五年以來年々優良なる種牡牛を購入し、大正十二年度より畜産組合に對し優良種牡牛購入費補助の法をとりて畜牛改良に努めると共に又馬匹に對しても同樣改良增殖を奬勵して居る。乳牛に對しても明治四十一年始めて產業組合法に依る組合を設け今や其の數六十有餘に達し、近來の發展著しく昭和三年牛乳共同處理設備補助規程を設くる等體格の改善と乳量の增加とに努め、其の他縣有種牡牛の貸付、優良牛馬の保留、牛馬實質法の改善、品評會及共進會の開催、畜產技術員の設置、實業觀察員の派遣、講習講話會の開催等により益々斯業の改善發達に實せんとして居るのである。養豚業は氣候、風土共に斯業の好適地であり、且つ京阪兩大消費地を控へ倘滋養食品推奬の今日每年生產增加の傾向を辿つて居るが、緬羊及山羊の飼養は振はず、蜜蜂も亦近年減少の趨勢にある。

本縣に於ける家畜中牛は官有のものを除き九萬九千四百七十一頭で家畜總數の八割五分を占め一頭に付農家戶數十八戶に當り、馬、豚等之に亞ぐ。今昭和四年の家畜頭數を示せば、

（昭和四年）

	總數	牝	牡
牛	九九、四七一	八一、三〇九	一八、一六二
馬	九、四二七	二、七二四	六、七〇三
豚	七、〇六〇	四、二七八	二、七八二
山羊	三四〇	二八二	五八
緬羊	一四	九	五
計	一一六、三一二	八八、六〇二	二七、七一〇

となり、更に同年內移動數を揭ぐれば次の通りである。

	生產頭	斃死頭
牛	一三、八五三	五二六
馬	二一八	九〇
豚	五、五六四	九二二
山羊	一〇八	二五
緬羊	三	一

計　一九、七四六　一、五六三

屠殺　屠場は二十一箇所で昭和四年中の屠殺頭數五萬一千百九十三頭内成牛二萬二千四百四十七頭、犢二千九百頭、馬四百六十六頭、豚二萬五千三百六十七頭、山羊十三頭である。其の肉量は百三十二萬三千八百九十一貫内成牛九十六萬七千八百四十七貫、犢三萬一千二百七十九貫、馬一萬七千六百二十九貫、豚三十萬七千七十一貫、山羊六十五貫で其の總價額四百五拾壹萬四千五百八拾參圓中成牛は參百八拾貳萬四千五百拾貳圓で八割二分に相當して居る。

家禽　家禽は副業的に飼養するもの多く、淡路最も盛で、之に亞ぐものは内海沿岸地方である。本縣の養鷄業は全國的樞要の地位にあるが、鷄卵の消費の如きは其の生產を以て充すに足らず、近府縣及支那方面より輸入を迎ぎつゝある狀態で、消費は今後益々增加の趨勢にあるので、縣では昭和二年度に養鷄奬勵專任技師を置き、同年度より鷄卵自給計畫を建て各種施設により農家經濟の助長發達を圖ると共に、食糧增加並に縣民榮養保健の一助たらしめんとして居るのである。

昭和四年六月末日現在に於ける本縣の家禽總羽數は百六十九萬一千六百一で内鷄は百六十七萬十八羽で大部分を占めて居り、農家一戶に付飼養羽數約九羽となる。

（昭和四年六月末日現在）

	總數	雌	雄	雛
鷄	一、六七〇、〇一八	七八一、六一一	一〇〇、六六七	七八七、七四〇
鶩	二一、五八三	五、六一七	二、六九二	一三、二七四
計	一、六九一、六〇一	七八七、二二八	一〇三、三五九	八〇一、〇一四

昭和四年中に於ける本縣の畜產物生產總價額は壹千貳百五拾八萬五千九百四拾貳圓で、農家一戶に付六拾參圓となる。

（昭和四年）

畜產物總價額	一二、五八五、九四二円
内	
生產家畜	一、二二九、〇二八
生產家禽	一、六〇二、七一三
肉（牛、馬、豚、山羊）	四、五一四、五八三
乳（牛、山羊）	一、四〇六、九二二
產卵（鷄、鶩）	三、三四八、一三五

計　一九、七四六　一、五六三

屠　畜　屠場は二十一箇所で昭和四年中の屠殺頭數五萬一千百九十三頭内成牛二萬二千四百四十七頭、犢二千九百頭、馬四百六十六頭、豚二萬五千三百六十七頭、山羊十三頭である。其の肉量は百三十二萬三千八百九十一貫内成牛九十六萬七千八百四十七貫、犢三萬一千二百七十九貫、馬一萬七千六百二十九貫、豚三十萬七千七十一貫、山羊六十五貫で其の總價額四百五拾壹萬四千五百八拾參圓中成牛は參百八拾貳萬四千五百拾貳圓で八割二分に相當して居る。

家　禽　家禽は副業的に飼養するもの多く、淡路最も盛で、之に亞ぐものは内海沿岸地方である。本縣の養鷄業は全國的概要の地位にあるが、鷄卵の消費の如きは其の生産を以て充すに足らず、近府縣及支那方面より輸入を迎ぎつゝある狀態で、消費は今後益々增加の趨勢にあるので、縣では昭和二年度に養鷄奬勵專任技師を置き、同年度より鷄卵自給計畫を建て各種施設により農家經濟の助長發達を圖ると共に、食糧增加竝に縣民榮養保健の一助たらしめんとして居るのである。

昭和四年六月末日現在に於ける本縣の家禽總羽數は百六十九萬一千六百一で内鷄は百六十七萬十八羽で大部分を占めて居り、農家一戸に付飼養羽數約九羽となる。

（昭和四年六月末日現在）

	總數	雌	雄	雛
鷄	一、六七〇、〇八	大、二、六二	一〇、六六七	七八七、四〇
鶩	二一、三八五	三、六一七	二、六九三	三、二七四
計	一、六九一、六〇一	七九七、三二九	一〇五、三六〇	八〇一、〇一四

昭和四年中に於ける本縣の畜産物生産總價額は壹千貳百五拾八萬五千九百四拾貳圓で、農家一戸に付六拾參圓となる。

（昭和四年）　円

畜産物總價額　一二、五八五、九四二

内

生産家畜　一、二二九、〇二八

生産家禽　一、六〇二、七一三

内（牛、馬、豚、山羊）　四、五一四、五八三

乳（牛、山羊）　一、四〇六、九二二

産卵（鷄、鶩）　三、三四八、一三五

蜂蜜及蜜蠟　三、七五六
乳肉製品　四八〇、八〇五

林業

本縣は植物帶上大部分暖帶に屬し、一般に樹木の生育に適し、成長概れ良好である。縣は大正四年縣山林會を創設し、また部落有林野の統一により林野の利用開發を圖り、入會整理を行ひ國土保安竝に治水上の危害を防止し、其の他森林組合の設立を奬勵する等林業の改良發達を圖りつゝある。

昭和四年十二月末現在に於ける林野總面積は四十六萬七千二百九十七町歩で種類別に之を示せば左の通りである。

（昭和四年末現在）

御料林野	二五九	町
國有林野	二五、三九五	
公有林野	一八一、一九一	
社寺有林野	九、二五六	

私有林野　二五一、一九六
計　四六七、二九七

昭和四年中の公私有林野天然造林は其の面積五千七十二町歩で內伐採跡地四千六百七十一町歩、無立木地四百一町歩であり、亦人工造林に於ては杉、扁柏、檜は北播及但馬、丹波に多く、南播地方には往々黒松の植栽行はれて居る。縣は連年造林奬勵に努め、營林愛護の思想を啓發せしめる爲め諸般の施設を爲して居る。

本縣に於ける公私有林の伐採面積は六千八百十五町歩で其の數量、價額を揭記すれば左の通りである。

（昭和四年）

	數量		價額	
薪炭材	四五八、六六八	棚	一、九九八、七六一	円
用材	五一五、四八〇	石	一、四四七、五八五	
竹材	一〇〇、七四五	束	一一八、三四三	
計			三、五六四、六八九	

昭和四年に於ける本縣の林野產物總價額は七百四拾四萬四千九百貳拾壹圓で內木炭は百

九拾九萬八千七百六拾壹圓(二割七分)を占め其の大部分は白炭で品質良好、阪神地方に聲價高く、昭和二年兵庫縣木炭同業組合聯合會を組織し、關係組合相互の氣脈を通じ製造又は販賣上の弊害を矯正して居る。需要地の主なるものは神戸、京都、大阪等で滋賀、愛知、東京方面へも移出するものが尠くない。

昭和四年に於ける木縣林野産物の主なるものを擧ぐれば左の通りである。

（昭和四年）

産	額	價	額
木炭	九、八四八、六〇〇貫		二、二五六、八七一円
松茸	二、六九七、四三四斤		八〇五、九〇四
紫草	一五、八八九、一三六貫		三二一、九四九
筍	二六九、二〇七		一一三、一二四
栗	三、四八〇石		一〇六、八一三

更に木炭を種類別に示せば次の通りである。

自炭	數量	價額
	八、〇〇五、四〇二貫	一、八八五、三五九円
黒炭	一、〇二九、七六六	二二二、二七七
カシヤ炭	八一三、四三二	一四九、二三五
計	九、八四八、六〇〇	二、二五六、八七一

鑛業

昭和四年に於ける木縣の鑛産物總價額は參百八拾七萬圓餘で、試掘鑛區數百八十七、採掘鑛區數十五、休業鑛區數百四、使用鑛夫は男二千二百七十二人、女二百五十七人、計二千五百二十九人である。

鑛産物

（昭和四年）

	數量	價額
亜鉛鑛	二、八七二瓲	一三七、七二二円
錫	六七五、五四六	一、二九〇、三六〇
銅「	二三	二一、六一九
格魯護鐵鑛	二五二	五、五二八
亜砒酸	五、〇八〇	七〇八

其の他		
計		一、四五五、九三七
石材、土石及鑛水價額		（昭和四年）
クレー（製紙紡織用）		一、一六一、六七八円
砂利		四一〇、七三二
安山岩		二三九、〇七九
粘土（煉瓦、瓦、土管原料及耐火材料）		一九七、五七二
鑛水		一八九、二一二
花崗岩		八三、六三五
砂岩		四五、六四五
珪砂		四一、一六六
其の他（凝灰岩、灰石、浮石砂、陶石及陶土）		四五、八〇八
計		二、四一四、五二七

水産

本縣は南北兩面海に臨み、海岸線の延長百餘里に及び、河川本流十里以上に及ぶもの九養殖場數八千四百餘、其の他縣下至る處の池沼、水田等水族の發生及成育の適地は甚だ多い。

水産物價額　昭和四年に於ける水産物總價額は壹千七拾壹萬五千餘圓で內沿岸漁獲物價額六百貳拾八萬餘圓、遠洋漁業價額六拾貳萬六千餘圓、水産製造物價額參百五拾九萬六千餘圓、水産養殖價額貳拾壹萬貳千餘圓である。尙其の主なるものに付種類別に之を揭ぐれば左の通りである。

魚類（遠洋漁業を含む）		（昭和四年）
	鰮	八五五、五七六円
	鯛（黑鯛を含む）	八三二、八九九
	鯖	四八六、六一六
	鰈	四七四、三八一
	鰆	一六五、〇九六
	其の他	二、八四八、四七四
計		五、六六三、〇四二

水産動物	鰛	四一八、一六三
	鰯	二一七、七四一
	其の他類	一九〇、四〇二
	計	一五〇、九八八
水産製造物		二二〇、三一八
水産養殖		一、一九七、六一二
藻類		三、五九六、六一五
合計		二一二、〇九三
		四六、一七七
		一〇、七一五、五三九

水産業者　水産業者數は昭和四年末に於て總數三萬五百五十人で、業主一萬三千八百七十五人、被用者一萬六千六百七十五人である。之を本業と副業に區分して觀ると本業二萬四百七十人、副業一萬八十人で其の割合は六割七分對三割三分となり、更に業務別に見れば漁撈二萬四千二百七十七人(七割九分)、養殖一千九百九十二人(七分)、製造四千二百八十一人(一割四分)に相當する。

漁　船　漁船は總數一萬一千二百十二隻で內動力を有せざるもの八千七百四十八隻、蒸汽機關を有するもの三十四隻、發動機を有するもの二千四百三十隻を算し、昭和四年中に新造したる數は五百九十隻、廢用船數は五百六十八隻で動力を有せざるものは逐年減少し、動力を有する漁船は增加を示しつゝある。

水產養殖　水產養殖に關しては連年の指導奬勵に依り著々進境の跡を示し、昭和四年末現在に於ける養殖場數は八千四百三十二、此の面積四百十萬一千餘坪、收獲高の總價額貳拾壹萬貳千餘圓で其の內主なるものは鯉拾參萬六千餘圓、鰻六千餘圓、鰻約五千圓等である。

工　業

本縣は海に陸に豐富なる工業資源を有し、貿易額我國に冠たる神戶港を抱擁して地理的にも天惠を受けて居るため、家內工業、工場工業共に自ら繁榮し、昭和三年に於ける工產額は六億參千七百萬圓に達し、大阪、東京兩都に亞ぎて第三位を占めて居る。

縣は大正六年工業試驗場を創立し、更に分場を增設して染織、金物製作等の實地指導に力め、釀造業は素より纖維製造に至る迄專任技師の設置、品評會、講話會の開催、先進地の視察、又は補助金の交付等各種の施設によつて益々斯業の發達に盡して居る。

工　場

本縣に於ける昭和三年末現在の常時五人以上の職工を有する工場數は二千九百六十七で二十年前の明治四十一年に於ける九百三十八に較ぶれば三倍以上となる。而して其の職工數は十四萬五千八百七十五人で内男八萬五千二百六十六人、女六萬六百九人で其の他の從業員は職員を合せて一萬四千五百五十六人を算し、更に職工を年齢別に見れば十六歳未滿一萬五千六百四十一人、十六歳以上十三萬二百三十四人、其の割合は八割九分と一割一分とになる。

次に昭和三年末現在に於ける職工數別に工場數を示せば、

	工場數	百分比
五　人以上十　人未滿	一、二六八	四二・七四
十　人以上十五人未滿	四一九	一四・一二
十五人以上三十人未滿	六五七	二二・一四
三十人以上五十人未滿	二七一	九・一三
五十人以上百　人未滿	一八九	六・三七
百　人以上五百人未滿	一一九	四・〇一

五百人以上千　人未滿	二〇	〇・六七
千　人　以　上	二四	〇・八一
計	二、九六七	一〇〇・〇〇

となり、更に事業別に之を示せば次の通りである。

	工場數	百分比
食料品工業	九七二	三二・七六
紡織工業	五一〇	一七・一九
化學工業	三二四	一〇・九二
製材及木製品工業	二六〇	八・七六
機械器具工業	二四二	八・一六
金屬工業	一一四	三・八四
印刷製本業	一〇四	三・五一
窯業	七五	二・五三
瓦斯電氣業	二〇	〇・六七
其の他の工業	三四六	一一・六六

計　二、九六七　一〇〇・〇〇

工産物價額

本縣に於ける工産物中紡績は其の首位を占め、機械器具、酒類、織物等之に亞ぐ。紡績は綿絲最も多く其の六割五分を占め毛絲、絹絲、麻絲等之に亞ぎ、機械器具にありては車輛最も多く其の一割七分を占め、船舶、船具、原動機、電氣機械器具、絶緣電線、航空機、農具、土工具等が之に亞いで居る。

酒類に於ては昭和四年末現在製造場數七百四十九で全國に普く其の品質の優良を喧傳せられ古來より灘酒の名聲高く、明石之に亞ぎ、其の他播磨の東部、赤穗郡、淡路等も產額多く、酒造場は縣下至る處に散在して居る。

織物は昭和四年末現在の狀況を見るに、綿織物に於ては機業場數三百二十三、職工數一萬四千三百二十人で生產品の重なるものは金巾、綾綿布、天竺、木綿、結木綿、タオル等である。絹織物及絹綿交織物に於ては機業場數五十二、職工數四百三十七人で主なる生產品に絹綿及紬、富士絹、紹及紗、リボン及絹テープ類等であり、麻織物及麻交織物に於ては機業場數三十二、職工數一千二百九十九人で帆布を主として居る。絹毛織物及毛交織物に於ては機業場數僅かに十三に過ぎないが職工數六千八百二十六人を有し、モスリン、ラシ

ヤ、洋服用セル地、フランネル等の產額多く各種織物製造總額の五割に當つて居る。

主要工産物

本縣に於ける昭和三年の主要工產品價額を示せば次の通りである。

×紡　績	八三、三七九、二七九	円
×機械器具（度量衡器を除く）	七二、五九八、三一八	
酒　類	五八、四五八、八三一	
毛織物及毛交織物	四七、七九七、〇六〇	
綿　織　物	四四、五七五、〇九四	
×金屬精錬及材料品	四一、〇六八、九六〇	
×護謨製品	三二、七六四、五五九	
×製　糖	二八、四二六、一三六	
紙	二四、五一八、五〇七	
肥　料	一九、四〇七、九三九	
×瓦斯及電氣	一六、八四二、三一二	
麥　酒	一二、六二六、〇二六	

菓子及パン 一一、七四六、五〇一
×漬　物 一〇、七九一、一九七
木製品 一〇、七六三、三七八
×鏡縁物 八、二〇六、二五九
調味料 七、七〇一、二四一
×鉄　金 六、五四八、三五九
麺　類 六、五一七、二八〇
×工業薬品 四、八一九、八〇〇
製　革 四、八〇七、九八三
製　塩 四、五四四、二八五
×金属製品（帯物・針類を除く） 四、四八六、二二七
植物油 四、〇三一、一三四
×製　材 三、九二四、三〇〇
メリヤス製品 三、八一三、〇三〇
精製樟脳 三、七九六、四九二

及　物 三、四二三、二五二
×塗料及顔料 三、三九四、九六〇
×動物質油脂 三、一八九、〇二八
杷柳製品 二、九七二、三二三
×医薬、衛薬、衛薬類似品 二、八九四、一三三
染　物 二、八七七、三七一
瓦 二、七七八、四一三
×セルロイド製品 二、七七七、三九五
硝子製品 二、七七一、六一二
清涼飲料 二、七六六、二〇一
×蝋　燭 二、二〇二、八八七
×精穀及製粉 一、九八六、一一八
帽　子 一、七一一、六二四
絹織物及絹綿交織物 一、五三二、二一九
陶磁器 一、五二九、九七五

×石鹸及化粧品　一、五一四、八五一
麻織物及麻交織物　一、四七三、七二八
紙製品　一、四五三、六七五
皮革製品　一、二四七、二三三
畳　一、一二三、八七二
×セメント　一、〇九三、四四四
（×印は常時五人以上の職工を使用する工場の生産に係るもの）

商業

外國貿易

本縣の商業は帝國に於ける大商業地である大阪市に近接して居るため其の勢力に壓せらるゝ感あることは謂へ、外國貿易に於ては全國輸出港中の首位を占むる神戸港を有するのである。神戸港は元兵庫神戸の二部に分れ、兵庫は古くより瀬戸内海港路の要港であり、神戸は元生田、宇治の鄕で神戸の津と稱し一の漁村に過ぎなかつた。慶應三年始めて外國貿易のため開港せられてから内外人の來往するもの多く、橫濱港と共に我國二大貿易港として世界的名聲を博するに至つたのである。

昭和三年に於ける神戸港の輸出額は六億參千百四十一萬餘圓で全國輸出總額拾九億七千九拾五萬餘圓の三割に相當し、輸入額は八億七千八百七拾參萬餘圓で全國輸入總額貳拾壹億九千六百參拾壹萬餘圓の二割五分に當り、その合計拾五億壹千拾四萬餘圓で橫濱港を凌駕すること實に壹億五千參百五拾萬餘圓となり帝國の首位を占むるに至つたのである。而して輸出品中最も重なるものは生絲の壹億八千萬圓餘で、ポンヂー及富士絹、生金巾及シーチング、綾木綿等の織物及メリヤス製品等之に亞ぎ、輸入品中最も主なるものは繰綿（原料品）の參億七千八百萬圓餘で、毛織絲、羊毛、生ゴム、諸機械等之に亞ぎ、輸出入の割合は輸出四割二分に對し輸入五割八分となる。

會社

昭和四年末に於て本縣に本店又は主なる事務所を有する會社の總數は三千二百三十一で公稱資本金又は出資總額は拾參億四千四百六拾五萬參千圓、積立金總額壹億九千七百拾壹萬壹千百貳拾圓である。今會社の組織別に之を示せば、

（昭和四年末現在）

	會社數	公稱資本金又は出資額
合資會社	一、三五七	六九、〇一四、六〇四圓
株式會社	一、二二一	一、一八九、九〇〇、〇三五
合名會社	五〇〇	八五、六一七、一二一
株式合資會社	三	一二一、二五〇
計	三、二三一	一、三四四、六五三、〇〇〇

となり、更に之を會社の目的である主要業務の種類に依つて分てば、

	會社數	公稱資本金又は出資額
商業	一、八七二	五七一、四四四、八三〇圓
工業	九六五	四五九、五五六、〇八六
運輸業	三四二	二七八、五二七、六五八
農業	三二	二一、四八四、四二六
鑛業	一六	七、〇五〇、〇〇〇
水產業	四	一六、一四〇、〇〇〇
計	三、二三一	一、三四四、六五三、〇〇〇

となり、尙之を資本金別に揭ぐれば大の通りである。卽ち資本金の增大するに從つて概ね會社數を減じ、資本金に於ては之に反比例を示して居る。

	會社數	公稱資本金又は出資額
壹萬圓未滿	九九〇	三、八六〇、六九一圓
壹萬圓以上五萬圓未滿	九〇一	一七、六七九、二四七
五萬圓以上拾萬圓未滿	四〇三	二二、四〇七、三〇〇
拾萬圓以上貳拾萬圓未滿	三四七	三九、一四九、六六二
貳拾萬圓以上參拾萬圓未滿	一二一	二六、二九三、五〇〇
參拾萬圓以上五拾萬圓未滿	九〇	二八、六三三、〇〇〇
五拾萬圓以上百萬圓未滿	一五八	八六、〇一五、〇〇〇
百萬圓以上五百萬圓未滿	一七三	二七七、二四四、七〇〇
五百萬圓以上壹千萬圓未滿	二六	一四〇、九〇〇、〇〇〇
壹千萬圓以上	二四	七〇三、五〇〇、〇〇〇
計	三、二三一	一、三四四、六五三、〇〇〇

以上の外、他府縣又は海外に本店を置き、本縣內に支店を設けて經營するもの多く、特

に神戸市の如きは我國に於て著名なる大會社の支店を設くるものが甚だ多い。

取引所

本縣の取引所は神戸市及姫路市に各々一あり。昭和四年中の取引高を見ると神戸取引所に於ては米一千二百四十一萬三千二百石、生絲百二十七萬九千四百斤、證券五百七十四萬五千八百四十株で、姫路取引所に於ては米百三十四萬五千七百石である。

金融

昭和四年に於ける本縣の金融機關の大要を掲ぐれば次の通りである。

銀行　本縣に本店を有する普通銀行、貯蓄銀行及農工銀行は合せて八十二、資本金總額壹億壹千參百五拾貳萬七千五百圓で組織別に之を示せば次の通りである。

	行數	公稱資本金又は出資額（圓）
合名會社	一	一〇、〇〇〇
合資會社	一一	一一三、五一七、五〇〇
株式會社	八一	一一三、五二七、五〇〇
計	八二	

産業組合　本縣に於ける産業組合は明治三十三年産業組合法の發布せられたる翌三十四年

多紀郡草山村に信用組合設立せられたるを始めとし、同四十年産業組合中央會兵庫支會の設立を見、越えて大正五年兵庫縣信用組合聯合會を設立し、同十三年兵庫縣購買組合聯合會、昭和四年兵庫縣販賣組合聯合會を設立して一般的指導と事業の聯絡發達に努めて居る。

昭和四年末に於ける本縣の産業組合總數は五百三十八、組合員數二十萬一千八百三十一人で一組合の組合員數は平均三百七十五人に當つて居る。尚出資狀況は口數八十八萬二千三百十六、即ち一組合當千六百四十口で、拂込濟出資金は壹千貳百七拾五萬四千百七拾六圓、積立金は六百貳拾五萬壹千四百四拾圓であつて一組合當財產は參萬五千參百貳拾六圓となる。

今各組合の概況を事業別に掲ぐれば左の通りである。

(一) 信用組合

		四五九
組合數		
貸付額		九六、七四八、三〇一円
貸付金	償還金	九二、九四九、一〇五
	年度末現在	六一、八六九、八八八

貯金（強約者の貯金を除く）	受入額	一六〇、八七〇、一〇二
	拂戻額	一五五、三九四、〇〇九
	年度末現在	八一、五三五、〇一五

(二) 販賣事業を行ふ組合

組合數		三〇七
販賣價額		六、八七二、一二七円

(三) 購買事業を行ふ組合

組合數		三六二
賣却價額	産業用品	三、二四三、一三五円
	經濟用品	二、二九六、九六四
	計	五、五四〇、〇九九

(四) 利用事業を行ふ組合

組合數		一七五
利用料		四二五、〇六八円

質屋 本縣の質屋店數は八百二十四で貸出件數二百六十八萬九百五十四件、その金額壹千六百貳拾貳萬九千五拾七圓で受戻件數は二百十二萬二千二百五十一件でその金額壹千貳百六拾八萬五千八百壹圓、流質件數三十三萬八千二十八件でこの金額は百八拾七萬參千參百四拾壹圓である。

手形交換 手形交換所に於ける概況を觀るに組合銀行二十七行、其の交換手形枚數二百六十一萬二千八十二枚、金額六拾貳億貳千六百四拾八萬貳千九百拾七圓で東京、大阪兩手形交換所に亞ぐ盛況である。

貯蓄 各種貯蓄の現況を見るに左に揭ぐるが如く總額約四億八千餘萬圓で內銀行預金其の六割七分を占めて居る。共同貯蓄は金員の外別に有價證券拾參萬七千八百八拾九圓、穀類三千七百八十一石の蓄積がある。

	人員	金額
銀行預金（昭和四年十二月末日現在）	…	三二三、八五一、一三九円
信用組合貯金（昭和四年十二月末日現在）	二〇一、八三一	八一、五三五、〇一五
郵便貯金（昭和三年三月末日現在）	一、二八六、九〇五	七〇、一九〇、〇六八
共同貯蓄（昭和四年十二月末日現在）	一九一、七四八	六、二三一、七四三

同業組合　昭和四年十二月末現在に於ける本縣の重要物産同業組合は其の數七十六に上り道府縣中第三位の多數を占め、殆んど各種の重要商工業に渉り之を組織して居る。

準則組合　本縣内の準則組合は昭和四年十二月末現在に於て總數百十一を算し、同業組合と同樣主なる商工業に渉り其の組織を見ないものはない。

度量衡

縣廳内に本縣度量衡檢定所を設け、姫路市及三木町に夫々支所を置き、度量衡檢定事務に從事すると共に計量改良、メートル法實行促進に努めつゝある。

次に度量衡業務の概況を述ぶれば左の通りである。

一、度量衡器、計量器の製作、修覆及販賣者

（昭和四年十二月一日現在）

	製作者	修覆者	販賣者	計
度量衡器	七	一〇	一六三	一八〇
計量器	二	三	四一	四六
計	九	一三	六〇四	六二六

二、製作、修覆及販賣個數

	製作	修覆	販賣
度量衡器	一八〇、二三三	一〇、七九二	二九〇、三〇六
計量器	三三〇	一、三七八	六六、八三一
計	一八〇、七五三	一二、一七〇	三五七、三三七

商業方面に於けるメートル法實行調（昭和四年末現在）

商業別	現在數	現在實行者數	摘要
白米商	四、八八三	四、三二九	〔基目一瓩 記錄米 十瓩、十五瓩、二十瓩、三十瓩
雜穀商	二、四九二	一、四六一	基目一瓩
麵類商	一、〇九五	七三三	〔粗飩玉 二百瓦 素麵 百瓦、六百瓦
酒類商	七、八八七	三、六三八	基目一リットル 樽詰 七十五立、三十五立 場詰 一立、二立、三升
味噌醬油商	二、九七一	一、四八五	〔基目 味噌 一瓩 醬油 一立
醬油商	一、二六五	六七七	基目六百瓦
砂糖商	二、三二一	二、二〇四	同　六百瓦

菓子商	八、三〇八	建目百瓦		
茶商	一、六一三	同 六百瓦		
牛乳商	八三九	同 一立	場諸	二坊、一坊
鶏卵商	三、〇八〇	同 百瓦		
肉類商	四、四五一	同 百瓦		
石炭、薪炭商	五、一四一	三、三九		
油商	二、三九三	一、六五一		
呉服太物商	四、三一一	二、〇三三		
綿商	一、三一三	一、三一三		
羅紗商	三六四	三六		
絲商	二、二四一	四八		
乾物商	八、九五一	三、三五七		
液物商	二、三四三	一、二八八		
鮮魚商	四、九二七	二、七二一		
青物商	四、六八一	二、三〇三	品物に依り一瓩、一立の別あり	
材木商	二、一四八	三三五		
金物商	三、八七三	一、〇六三	建目一瓩	
計	八三、三二一	四八、四二一		

交通土木

本縣の交通は世運の急激な進歩に伴ひ水陸共に急速度ん以て完備に近づきつゝあるが、道路港灣の如き河川治水の如き何れも容易の業でないため不斷の努力を以て調査研究を怠らず、年々數百萬圓の費用を投じて改良に力を盡してゐる。

以下事業別にその大要を述ぶれば次の通りである。

道路、橋梁

本縣に於ける國道は大正九年四月告示せられたる路線で、其の數五、里程三十三萬六千七百二十五メートル餘である。

縣道は大正九年四月告示したる當時は、路線數百四十四であつたが、其の後認定を變更し又は新に路線を認定したるもの等を合せて大正十二年三月末には百五十七路線となり、

其の後郡制廢止に因り、或は交通情勢の變遷、停車場設置等により激增し、昭和四年末現在に於ては路線數四百二十、この里程三百七十三萬六千五百五十七メートル餘となつた。橋梁は縣下を通じて國道に架設せるもの四百四十三、縣道に架設せるもの三千五百四十二を算して居る。

船舶

昭和四年末現在に於ける船舶を種類別に示せば次の通りである。

		登簿船	不登簿船	計
日本形船		五九九隻	五六三隻	
西洋形船	汽船	三五三	一〇〇	
	帆船	一、七八七	二、三三三	
小船		—	六、一五八	
遊船		—	五四〇	

諸車

昭和四年三月末現在に於ける本縣の諸車は左記の通りで、馬車の減して荷用自動車之に代り、人力車減びて自動車激增しつゝある。

乘用馬車		六
荷積用	馬車	六、六五八
	牛車	六、八二八
荷車		九五、二九七
自動車	乘用	二、四〇六
	荷用	九一四
人力車		一、七三二
自轉車	自動	一、一二七
	普通	三〇二、二六六
三輪		二、三四八

鐵道

本縣内に於ける國有鐵道は明治七年東海道線の開通に始まり、地方鐵道としては明治三十九年八月元龍野電氣鐵道株式會社(現在播電鐵道株式會社)が網干、莢奇間に鐵道敷設の免許を得て明治四十二年一月に開通を見たるより漸次發達して現在に於ては國有地方合せて總延長六百七十粁となる。

之を表示すれば次の通りである。

	停車場	粁数	旅客 乗車賃	一日平均旅客	貨物 噸数	貨物 賃金
				人	千噸	千円
総	二四九	粁 六七〇	千人 三七、九二三	一一、九二三	五、八五八	一〇、八六六
東海道本線	八	二七	一〇、三八三	四、七三〇	六二七	一、二九九
神戸海陸線	二	四	四	三	一一	五三五
神戸海岸線	一	二	—	—	—	—
山陽本線	二〇	一〇一	八、七二六	二、九九〇	一、三八四	二、六六二
和田岬支線	三	四	二五二	六	九八〇	三六六
播但線	一七	七一	一、五九三	三七二	四、三六四	四七〇
山陰線	一五	九四	二、一八六	八九一	五、九八九	二四〇
峰豊線	二	三	—	—	—	—
福知山線	二三	一〇三	三、二四一	八五五	八、八七七	三五七
尼崎線	二	五	三九八	一〇七	二〇九	七九七
有馬線	一二	一四	三三一	九	八	三

摩耶鋼索	二	一	二八九	七九二	—	—
神戸有馬電氣鐵道	二一	三五	一、九九五	五、四六六	〇	二
宇治川電氣電鐵部	二五	三九	五、一一一	一四、〇〇三	三六	四九
妙見鋼索鐵道	二	一	二八〇	七六七	—	—
播丹鐵道	四二	九一	一、三三三	三、六三一	三一一	四二一
別府輕鐵	三	八	五	一一〇	一四	八八
播電鐵道	二一	一七	一、〇六三	二、九一二	三一	二〇
赤穂鐵道	九	一三	二五八	六一	七〇七	四四六
出石鐵道	六	一一	四五	八	一一五	二
篠山鐵道	五	五	一五二	二三	四一六	二四
淡路鐵道	一六	二三	五〇七	一〇九	二、一三八九	一五

軌道

本縣に於ては阪神電氣鐵道株式會社(元摂津電氣鐵道株式會社經營)が明治三十年六月神戸尼崎間に特許を得軌道敷設を完成して明治三十八年四月より開通を見たるに始り、其の後各地の發展に伴ひて軌道事業は勃興し、昭和四年三月末現在に於ける概況は左のり通で

ある。

軌道(昭和四年度)	停車場	粁數	旅客	乘車賃	一日平均旅客	貨物	
						瓩數	賃金
總數	一五五	二〇七粁	二二一、七五〇千人	二〇、四〇一千円	六〇七、五三四人	九一、九二三瓩	二四五千円
神戸市電	八八	三〇	一〇三、五七九	五、九二九	二八三、七七八	—	—
宇治川電氣	二六	一八	一二、一六二	一、〇五八	三三、三二一	一六、四一九	二〇
阪神電氣	一〇二	七一	五七、七七四	六、六三八	一五八、二八五	三三、四二七	七一
能勢電氣	一三	一三	九八七	一八四	二、七〇四	二七九	五
阪神急行	四六	七五	四七、二四八	六、五九二	一二九、四四七	四一、七九七	一四九

無軌道電車

新花屋敷溫泉土地株式會社は阪急電鐵寶塚線新花屋敷停留所附近に於て其の經營せる土地開發を兼ね地方交通機關として無軌道電車を施設し、昭和三年八月開通した、即ち延長一粁で無軌道電車としては本邦に於ける最初の試みである。

港灣

縣內港灣は十五の郡市を通じて七十九、神戸港を首として尼ヶ崎、西宮、明石、今津、

御影、江井ヶ島、高砂、曾根、飾磨、家島、相生、坂越、新濱、香住、津居山、濱坂、居組、諸寄、洲本、由良、岩屋、郡家、福良等主なるものである。

航路標識

縣內に於ける航路標識に九あり、燈臺五、燈竿一、立標二、浮標一にして左表の通り。

	位置	北緯	東經	初點年月日	構造	等級及燈質	光達距離
洲本燈竿	津名郡洲本町	三四・二一度分	一三四・五四度分	一四・一二・一〇明治年月日	木造白色	不動白色	七・〇浬
和田岬燈臺	神戸港和田岬	三四・三九	一三五・一一	五・八・二九	鐵造六角形紅色	第四等アセチリン瓦斯明暗白色明間三秒暗間三秒	一二・五
平磯挂燈立標	明石瀬戸平磯磯上	三四・三七	一三五・〇四	二六・一一・一一	混凝土造圓形黑色	不動紅色	六・〇
江崎燈臺	津名郡の北端	三四・三六	一三四・五九	四・四・二七	石造圓形白色	第三等不動白色	一九・〇
飾磨燈臺	飾磨港西波止場	三四・四七	一三四・三九	三二・一・…	木造四角形白色	不動白色白縞電燈	九・〇
神戸港東朝波堤南燈臺	神戸港東防波堤南側	三四・四〇八秒	一五三・一一五五秒	大正七・五・一五	鐵造格子製櫓形白色	無等アセチリン瓦斯閃光紅色每四秒半時間に一閃光	一一・五
神戸港東防波堤北燈臺	神戸港東防波堤北側	三四・四〇四二秒	一三五・一二一六秒	七・五・一五	鐵造格子製櫓形白色	無等アセチリン瓦斯閃光綠色每四秒半時間に一閃光	一一・五
鹿ノ瀬挂燈浮標	播磨灘鹿の瀬磯の南側	…	…	四・一一・…	鐵造頭殼円錐形上部格子製櫓形黑色	アセチリン瓦斯閃光白色每三秒時間に一閃光	八・〇

尼ケ崎立標

尼ケ崎港東波止堤頭

水準原標ヨリ高サ三尺五寸

入港船舶

港名	汽船 船数	汽船 積量	帆船 船数	帆船 積量
神戸	一九八六〇	一〇、一一五	一三五一九	千噸 九一五
明石	二五二八	五五	一一五四七	八七
洲本	二九一三	四一四	四三四三	六三
西宮	一〇五〇	六一	二一八八	五八
尼崎	二六四一	四八	三三五八	一八三
飾磨	四六二一	一二三	四五九	四七
高砂	二一九五	四二四	二〇八五	六三
相生	一三四	三〇四	一二六〇	一八
津居山	—	—	一八七〇五	一五六
瀬戸	三〇七	三一〇	五八四六	一九四

その他

四一〇〇噸　四七〇〇　八九七八六　一五三七

上水道

（昭和四年度）

	水管延長	貯水池	一日給水量	給水戸数 現住百中 給水戸数	給水栓数	水料 計量	水料 放任	水料 其の他
	粁		立方尺			千噸	千噸	千噸
神戸市	三一・一	三五、八〇三	一、九〇、九八〇	七〇	八〇、三一二	一、九三七	？	一九
姫路市	八九・九	八二、六七七	一三三、六一二	二〇	二、六四四	一九	一一	—
尼崎市	四四・六	二、四九三、〇五六	九、二五四	八九	七、二八五	八四	六六	五
明石市	一〇・一	二	—	—	—	—	—	—
西宮市	四一・四	二一、四九七、六二四	五、九二六	六六	五、七九三	—	七六	三〇
大社村	四・四	—	七四、三五四	一八	四〇三	一三	九	一
高砂町	一八・一	二	七〇四、九六三	一、八五二	一、四七八	—	五	九
豊岡町	一一・八	二	四五二、九四四	二、一七三	八八	三〇一	二	一八
城崎町	一〇・五	一	二〇五、一三〇	五九二	七九	一、一〇三	七	四
日高町	八・三	一	二、六五〇	六二九	五〇	七四二	五	三
篠山町	一二・一	一	一六七、四四三	六三三	四九	一、〇九〇	四	一

瓦斯及電燈

（昭和四年度）

	經營者	株主人員	資本金	拂込資本金	興業費	瓦斯管延長竝電路亘長	供給戸數	收入金
瓦斯事業	一	一、三八〇	千円 三、一二五	千円 一、六〇一五	千円 二、一四六	一、一二〇粁	一三五、三七六	千円 七、八九四
電燈事業	二六	二九、一一一	二六七、九〇六	二〇五、四六五	三二、六九九	九九、九五三	六二六、六六八	六五、四四三

教育

初等教育

小學校　本縣に於ける小學校は明治五年十月、神戸市に明親小學校の開設を見たるを初めとし、爾來小學校設置の機運漸く熟し、明治十二年教育令公布の際には小學校七百七十五、教員數二千八百八十一人、兒童數八萬一千六人であつた。其の後明治二十三年小學校令の改正、同三十三年小學校令施行細則の制定等あり逐年推移發達の傾向著しく、昭和五年三月には小學校總數六百三十四校、教員數九千百九十二人、兒童數三十七萬七千三百二十人の多きを算するに至つたのである。而して學齡兒童總數は四十五萬四千二百九十九人で內就學者三十八萬二千九百七人、不就學者五千二百五十五人、就學始期未達六萬六千百三十七人、その就學歩合は八四・二八人となる。

幼稚園　幼稚園は明治二十二年私立神戸頌榮幼稚園の設置せられたるを始めとし、公立としては明治三十年御影幼稚園設置せられ爾來進歩參らざりしが、最近幼稚園令の公布せらるゝに及び、保育思想俄に普及し、昭和五年三月には總園數百十八、保育幼兒數一萬八千八人に達して居る。

中等教育

中學校　本縣に於ける中學校は明治八、九年の交篠山、豐岡、洲本の各地に始めて設立を見、其の後漸く其の數を加へ、明治十二年教育令公布の時に於ては公立五、私立三、其の生徒數男女合せて四百六十六人であつた。然るに經濟界の變動に因り、廢校するもの續出し一時衰頽の徵があつた。明治十九年中學校令公布の時には僅かに組合立姬路中學校及私立鳳鳴義塾の二校に過ぎなかつたのである。其の後明治二十年姬路中學校は縣立となり、同二十九年神戸、豐岡の兩校設立を初め、漸次發達の歩を進め昭和五年三月には校數縣立十四、其の他六、計十二校、生徒數一萬四千七百二人を有するの盛況を呈し、尙夜間中學講座は昭和三年度に於て第一神戸中學校に設置したるを初め、現在校數四、生徒數二百五十六人を有するに至つた。

高等女學校　本縣に於ては明治八年神戸市に現在の神戸女學院の前身である英和女學校が

開設せられたるを初めとし、其の後發達も遲々として進まず僅かに明治二十年神戸市に私立親和女學校、同二十五六兩年に神戸市に松蔭、姫路市に日の本の兩女學校の設置を見たるのみであつたが明治二十八年高等女學校規程制定せられ次で同三十二年高等女學校令の發布を見るに及びて明治三十四年縣立神戸、同三十六年郡立淡路兩校の設立を見る等縣下の女子中等教育も漸く發展の途に就き近時著しく充實の度を進め、昭和五年三月に於ては學校數立縣十三校其の他二十八校計四十一校、其の生徒數一萬六千五百三十六人を算するに至つた。尙又女子のために昭和四年夜間高等女學校一校を開設し生徒三十八人を收容した。

中等學校に類する各種學校　男子のために關西學院中學部一校、生徒七百七十一人女子のために神戸女學院高等女學部、日の本女學校、銀星女學院の三校、生徒五百二十八人を教養して居る。

師範教育

本縣に於ける師範教育は明治七年兵庫縣師範傳習所を神戸元町に設けたるを嚆矢とし、同十年之を改稱して神戸師範學校と稱した。其の前年併合したる豐岡、飾磨兩縣の設置せる豐岡、姫路の兩校を廢して之に合せ優良教員の養成に努めたが當時の生徒數は僅かに七

十餘人に過ぎなかつた。其の後小學教育の振興に伴ひ明治三十二年武庫郡御影町に新築移轉して其の面目を一新したのである、これ卽ち今の御影師範學校である。次で明治三十四年新に姫路師範學校を設立し、同三十六年明石女子師範學校を設けて時代の進運に供へ、昭和五年三月に於ては三校合せて生徒總數一千六百九十二人を算するに至つたのである。

專門教育及大學

本縣に於ける專門學校竝實業專門學校は官立二校、縣立一校、私立二校、計五校で外に高等學校官立一校、私立一校及商業大學官立一校がある。

專門學校及大學

	所在地	創立年月	修業年限	學生生徒數
(官立)神戸商業大學	神戸市野崎通一丁目	昭和四・四	大學部 三	二一八
(縣立)神戸高等商業學校	神戸市西灘原田	昭和四・四	本科 三	一六二
(官立)神戸高等商船學校	武庫郡本庄村深江	大正九・八	航海科 五	二三四
			機關科 五	二三八
(官立)神戸高等工業學校	神戸市水笠通一丁目	大正一〇・一二	建築科 三	九四
			機械科 三	一一一
			電機科 三	一二三
			土木科 三	三八

(官立)姫路高等學校	飾磨郡安室村	大正 一一・一二	文科	三	三二二
			理科	三	二二四
(私立)甲南高等學校	武庫郡本山村岡本	大正 一三・四	尋常科	四	三〇三
			高等科	三	一七〇
(私立)關西學院	武庫郡甲東村上ヶ原	明治 二三・九	神學部	五	五八
			文學部	四	三六九
			高等商業部	四	七七九
(私立)神戸女學院	神戸市山本通四丁目	明治 八・一	大學部	三	四五
			高等部	三	一四〇
			音樂部	三	三三

實業教育

實業教育は明治十一年全國に率先して縣立商業學校を設置したるを始めとし、其の後農學校、工業學校の設立を見、又大正十一年郡制廢止に伴ひ各地に於ける此の種學校は其の內數校は廢止せられ他は縣立に移管と同時に組織も變更せられ、昭和五年三月に於ては公私立を合して農業七校、工業二校、商業十三校、職業五校、計二十七校、生徒總數一萬八百五十八人に達するに至つた。

尙實業補習學校は時代の要求に應じ近年著しく勃興し、現在に於ては學校數五百三十校

生徒數五萬一千八百六人を算し、大正十二年以來教員養成所を開設し又實業教育主事を置く等實業教育一般の指導に盡し其の充實に努めつゝあるのである。

特種教育

盲聾啞學校　盲學校は明治三十九年私立訓盲院の創立に始まる、大正元年私立尼崎訓盲院の創立に次いで私立盲人技術學校の設立を見たるが大正十四年訓盲院及盲人技術學校を縣に移管し縣立盲學校と改稱して其の內容設備を整へ今日に至つたのである。昭和五年三月には兒童生徒數男百五十七人、女二十七人、計百八十四人で移管以來の卒業生は百六十七人である。然るに就學者數逐年增加の傾向ある爲め近く更に縣立聾啞學校の新設を計畫中である。

各種學校　各種學校中小學校に類するものは總數五十校で其の兒童生徒數は五千七百九十八人である。此等は貧困兒童の爲め夜學校を設けて初等教育を行ひ、又は女子に裁縫手藝を課し或は小學校卒業者にして直ちに實務に就く者の爲に職業教育を施すもの等で何れも其の成績見るべきものがある。

尙其の他の各種學校總數は四十二校で生徒數五千九百八十七人此等は殆んど私立にして實業に關する實際的教育を施して居る。

諸學校幼稚園及圖書館統計表

（昭和五年三月末日現在）

學校		教員	保姆	本科生徒又は兒童	幼兒	本科卒業者（年度內）	本科入學者（年度內）
小學校		六三四	九、一九三	三七七、三三〇		七一、二四三	八九、二〇五
幼稚園		一八	二三五	一〇、〇八八		八、〇九五	八、九一四
小學校に類する各種學校		五〇	二〇一	三、七九八		二、一一〇	四、九四六
中學校		二〇	三八八	一四、七〇二		二、三三五	三、四八五
高等女學校		四一	七〇一	一六、三三六		三、〇八四	四、一九五
師範學校		三	一〇一	一、六九二		四八六	四五三
農業補習學校教員養成所		一	一	一六		一六	一七
實業學校		二三	三六二	九、三一〇		一、六〇八	第一學年 二、七四〇
職業學校		五	七二	一、三四八		三〇九	第一學年 五四四
實業補習學校		五三〇	五九三	五二、八〇六		一、〇五六	二三、九八三
盲聾唖學校		二	二四	二一六		四〇	一三七
中學校に類する各種學校		四	六〇	一、〇二七		一二四	四四三

高等女學校に類する各種學校		一	五五	一〇三	一六三
其の他各種學校		四三	四〇五	一、七四一	三、五八七
圖書館		六三	三三三、一三〇	二一七、一六五	一五、九六五

公學費及公學資産

公學費

（昭和三年度）

		總額	市	町	村
總額	收入	一、二四九、一六九円	一、〇四五、〇一八円	三、一五六、七四四円	
	支出	二〇、〇八五、〇三三	五、五五八、〇五九	一〇、三〇二、二八一	
小學校	收入	三、九八四、九八〇	一、三四九、一七九	二、八七一、一八四	
	支出	一、三九一、一六一	四二、二九八、四二九	八、九九二、七三二	
中學校	收入	七五三、七五八	三六、九七七	二、八七一、一八四	
	支出	一、一九八、二九三	五〇、六九六	八、九九二、七三二	
高等女學校	收入	五八七、八二四	三〇〇、二五三	八七、二七三	
	支出	一、〇五五、〇四七	二九七、六九七	二〇七、〇六一	

師範學校	收入	一二〇、六〇一	一二〇、六〇一	—	—
	支出	五九三、二四三	五九三、二四三	—	—
教員養成所	收入	—	—	—	—
	支出	七、〇四七	七、〇四七	—	—
實業專門學校	收入	—	—	—	—
	支出	四、七二〇	四、七二〇	—	—
實業學校	收入	四八七、六八五	一三五、五〇四	二二八、七六九	一二三、四一二
	支出	一、五七六、五一〇	四一六、八八〇	五二九、五六五	六三〇、〇六五
盲學校	收入	一、九八八	一、九八八	—	—
	支出	二八、六九四	二八、六九四	—	—
其の他	收入	二一四、四三三	七四、三〇四	六五、三二三	七四、八〇六
	支出	二、三八〇、三〇八	一、五二六、二一三	三八一、六七二	四七二、四二三

公學資産（昭和四年三月末日現在）

	總額	縣	市	町村
總額	円 六六、八八二、四六〇	円 一四、三〇九、七二三	円 二五、一〇九、三九六	円 二七、四六三、三四一
小學校	四五、四五六、二二六	—	一九、五二九、九九五	二五、九二六、二三一
中學校	四、六九八、一四七	四、三五三、六九七	三四四、四五〇	—

高等女學校	六、九九〇、八〇五	四、四七六、五〇七	一、九六二、八〇〇	五五一、四九八
師範學校	二、八五三、六八〇	二、八五三、六八〇	—	—
實業學校	四、九六九、四一六	二、六二〇、五五一	一、九五四、二二四	三九四、六四一
盲學校	五、二八八	五、二八八	—	—
其の他	一、九〇八、八九八	—	一、三一七、九二七	五九〇、九七一

社會教育

青年訓練所　大正十五年青年訓練所令の公布と共に縣下全市町村一齊に之を設置し其の數現に五二九所、訓練を受くる者の數二萬九千八百三十九人今や其の健實なる生活化の達成に努めて居る。

青年團　青年團は町村青年團を基礎とし各郡市に郡市青年團あり之を聯合して縣聯合青年團を組織して居る、昭和五年三月には團數四百十九、團員數十三萬六千三百七十四人を算し聖訓に恪遵し縣青年綱領五項目を定めて之に依據せしめ之が啓發善導に努めて居る。

少年團　大正八年創立し現在に在りては團數六十八、團員數三千七人を算し之等少年團は何れも日本聯盟に加盟し其の規定せる綱領並掟を遵守し、教範に則り班教育制度に依り

て訓練を施して居る。

女子青年團　青年女子の修養團體は處女會と稱し最近に至る迄其の設置未だ普からざりしも昭和二年縣聯合女子青年團を組織し、五大綱領を定めて修養の指針と爲しつゝあり、現今市町村に於ける四百八團體、六萬一千五百九十二人の團員あり。

成人教育　社會の實務に從事する成人に對しては成人教育講座の開設を奬勵しつゝあるが其の外御成婚記念事業資金歳入の一部を以つて毎年公民教育講座を開催し來り、昭和三年度にありては御聖德竝團體に關する講座を開きたり、其の他戸主會、婦人會等に於ても何れも啓發善導に努めつゝあるのである。

圖書館　圖書館に關してはあらゆる機會に於て之が設置を奬勵し今や其の數七十六館（公立五三、私立二三）未だ設置なき町村甚だ多い。

實業事業　本縣内に居住し中等學校以上の學校に在學し身體强健品行方正學力優秀なる者にして家庭の事情上學資の給貸與を希望する者に對し在學中學資として一定の金額を貸與する事となり最近給與せる者百一名貸與金年額約壹萬七千九百五拾圓となる。

社寺及教會

神社　本縣に於ける昭和四年末の神社總數は四千八百七十三で、明治三十九年以降數年に亘つて政府の方針に基き整理の斷行をしたる結果、當時に比し減少して居るが無格社の如きは其の數二千七百三十五を算し、總數の五割六分を占めて居る。

	總數	官國幣社	縣社	鄉社	村社	無格社
神社	四八七三	二	七二	一六〇	一八九八	二七三五
神職	四四四	二三	九二	一四七	一六七	五

寺院　昭和四年末に於ける寺院は總數三千八、住職二千八百九十六人で、眞宗に屬するもの最も多く總數の約三割を占め、眞言、曹洞等之に亞ぐ。

	寺院	住職
眞宗	八九九	八八三
眞言宗	六三五	五九五

曹洞宗	四三六
浄土宗	三五二
臨済宗	三一二
天台宗	一七〇
日蓮宗	一六一
黄檗宗	三二
時宗	一一
計	三、〇〇八

諸教會

神道に屬するもの	四一九
天理教	三四一
金光教	三〇〇
黒住教	一六二
神理教	一五九
神道	二四
計	一三
	二、八九六
佛道に屬するもの	八七七
眞言宗	九五
眞言宗	五八
日蓮宗	五五
天台宗	五七

浄土宗	四〇
法相宗	一三
臨済宗	七七
曹洞宗	一、二七二
黄檗宗	二四三
計	一五八
其の他	七五
大社教	二七
御嶽教	一一
	九
	七
	六
	四
	五四〇

基督教會

	會堂	宣教者	信徒
日本組合基督教	一五	一一	二、六四五
日本聖公教	一四	一四	一、九七三
日本基督教	一一	一三	一、八九二
浸禮教	六	五	七三一
天主公教	七	六	二、三〇〇
福音教	三	三	九〇
ハリストス正教	二	二	三五七
其の他	三八	三六	三、七七〇
計	九六	八九	一三、六五九

國寶建造物及國寶

昭和四年末現在の國寶建造物及國寶は左の通りである。

國寶建造物

神社所屬のもの　一四棟

寺院所屬のもの　二四

國寶

國寶所有社寺　七三

書蹟　六

繪畫　一三三

彫刻　一二五

經卷　二

美術工藝品　一五

金石文　一

刀劍　五

計　二八七

社會事業

罹災救助

昭和四年度に於ける本縣の罹災救助總費額は拾壹萬五千七百拾九圓で前年に較べると實

に二十八倍となり、更に昭和元年に較ぶれば約四十五倍となる。即ち明石、加古兩郡內に於ける旱害の爲め稻作被害者に對し食料及種穀を給與したるに依り著しく增加したのである。

食料費	八〇、六五七	円
就業費	三三、三七八	
小屋掛費	七〇五	
被服費	四八七	
學用品費	四二七	
葬出費	六五	
計	一一五、七一九	

窮民救助

昭和四年度に於て救助を受けたるものは國費及地方費を通じて六百四十二人、內國費三百八人、地方費三百三十四人で之に要したる救助金額は貳萬七千六百拾圓、內國費八千六百四拾八圓、地方費壹萬八千九百六拾貳圓である。

疾病	七二	人

老衰	二七八	
疾病	一三三	
幼弱	一五九	
計	六四二	

行路病人

昭和四年度に於ける行路病人に對する救護金額は六千參百四拾參圓七拾五錢で行旅死亡人に對する費額は壹千七百七拾貳圓七拾八錢である。

行旅病人	二一〇	人
年內救護者	九〇	
救護中死亡	三三	
年末現在		
行旅死亡人	一七	
病死	一一七	
變死	二三四	
計		

恩賜財團濟生會

大正八年七月救護觀察員を創設し、昭和二年七月方面委員制度實施と共に委員會幹事を兼務せしめ、現に七名其の職に在り、益々聖旨の普及に力めて居る。

尙昭和元年度に於て慈惠救濟基金及恩賜賑恤基金を以て助成金を下附したる私設會社、事業團體數は二十團體に達し、總額四千四百四拾圓の助成金を下附したのである。

軍事救護

昭和四年度に於ける軍事救護總數八百二十一戸、人員二千四百六十四人、金額拾萬八千百五拾貳圓で、下士卒傷病兵の家族は七百七十八戸、人員二千三百八十三人、金額拾萬貳千四百六拾參圓、其の遺族は四十三戸、人員八十一人、金額五千六百八拾九圓である。

醫療保護

本縣の恩賜財團濟生會の事業は大正元年既に着手して居た。卽ち貧なる事業は救療事業で昭和四年度の救療實人員六千八百七十二人、延人員二十一萬二千百四十八人となる。

住宅組合

大正十年住宅組合法發布以來低利資金の貸付を受けて住宅を建設するもの多く昭和四年度末現在に於ては其の數百八十三、組合員數千七百三十八人、此の貸付金額參百貳拾五萬九千七百拾四圓を算するに至つた。

其の他社會事業資金として大藏省預金部低利資金の貸付を受くるもの或は簡易保險局積立金の貸付を受けるものも甚だ多い狀態である。

移殖民保護奬勵

近時南米ブラジル國に移るもの增加したる爲め、大正九年十月兵庫縣海外渡航者講習所を開設し神戸港に集中し來る海外移住民に對し必須なる事項の講習をなしつゝあつたが、昭和三年三月國立移民收容所設置せられ此の事業は同所に移管せられたのである。

融和會

融和促進の目的を以て大正十二年創立したる本會は、縣下各郡市に支部を設け委員を嘱託し着々その目的の貫徹に勢めつゝありて昭和四年度に於ては歲出總算貳萬六千圓を計上するに至つた。

感化事業

本縣は海外交通の門戸に當れる關係上外來惡想の影響を受けること甚だしく之に伴ひて保護を要する少年の增加も著しく、之が感化の爲め明治四十二年明石郡魚住村に縣立土山學園を設置した。昭和五年三月末日現在に於ける職員二十五人、入園人員二百九十四人、

經費建築參萬七千八百拾六圓である。

其の他

以上は本館に於て行つて居る事業の主なるものであるが、尚市及町村に於ては公設食堂、職業紹介所、日傭勞働紹介所、宿泊所、保育所、兒童相談所、附屬診療所、低格兒童預所、實費診療所、救護院、扶養老院、巡回產婆、住宅組合、公設住宅等殆んど枚擧に遑なく各種事業につき何れも鋭意斯業の完備に努力して居る。其の他私設に係る社會事業も其だ多いが其の內主なるものに就き昭和四年末現在に於ける狀況を示せば次の通りである。

日本赤十字社兵庫支部

有功章佩用者		
社員		二三五人
特別社員		九三、八二九
終身社員		一、五〇六
正社員		五四、九〇九
		三七、四一四
年醵金納了額		一〇二、八八三円
現住人口百に付社員		三・八人

愛國婦人會神戶支部

有功章佩用者		七一九人
會員		五二、五七二
特別維持會員		三二九
特別會員		三、七七七
普通會員		四八、四六六
賛助會員		一八八
醵金		二三、〇八九円
救護人員		一八五人
救護金額		二、〇九〇円

大日本武德會兵庫支部

會員		一二〇、九六二人
有功會員		二九九
特別會員		六、九七二
正會員		一一一、八九九

賛助會員

日本海員掖濟會兵庫支部　一、七九二

會員　一八、一一二人

特別會員　四八三

通常會員　一七、六二九

賜金　一六、〇七六円

財政

縣財政

時運の進展と經濟事情の變遷に伴ひ、明治十二年縣會創始の當時に在りては、歲出總額僅々參拾貳萬圓に過ぎなかつた本縣の經費も、明治三十五年には貳百拾四萬圓を算し、其の後經濟界の膨脹に伴ひ、昭和四年度迄は逐年增加の傾向があつたが、昭和五年度に於ては稍々減じ、一般會計歲算壹千九百萬圓餘に及び二十年前の明治四十三年度に較べると約六倍半に當る。其の內譯を示せば次の通りである。

昭和五年度縣歲入歲出歲算（特別會計に屬するものを除く）

歲入

經常部

縣稅	八、四八二、二〇三円
財產收入	三六、四六一
使用料及手數料	一、二八八、七四五
國庫下渡金	六九八、七〇七
雜收入	四九一、八六三
恩給分擔金	三四、九七四
市分賦金	三、九〇二、七七六
經常部計	一四、九三五、七二九

臨時部

繰越金	八四八、六七二円
國庫補助金	八六一、五五八
財產賣拂代	五五七、四三二
寄附金	三一三、三〇七

土木費納付金	五、六二七
土木費負擔金	二五、二一六
縣債	七五九、九〇〇
貸付金償還金	七二六、九八七
特別會計繰入	一〇、〇〇〇
臨時部計	四、一〇八、六九九
議入總計	一九、〇四四、四二八
議出	
經常部	
神社費	一一、七五八円
會議費	五八、七九五
縣官吏諸費	一四九、八六〇
縣吏員職員費	一、二七六、八三九
廳費	二〇、二九五
警察費	四、〇八九、二八五

警察廳舍修繕費	三四、四九六
土木費	一、三九九、四三一
教育費	二、六〇八、三九六
衛生及病院費	二一九、〇〇六
勸業費	五九八、三一七
社會事業費	一〇一、四一八
都市計畫事業費	八七、二九八
選擧費	七九九
財產費	五一、九八一
縣費取扱費	二五九、三八七
議事堂管理費	一三、三一六
公園費	一三、四〇五
縣廳舍修繕費	一〇、二三五
諸遣諸費	九、九六六
統計費	一三、五八九

土地收用費	一九〇	
市町村吏員懲戒審査會費	二	
市町村及水利組合補償價額査定費	一	
地方改良費	一四、六五九	
諸給與費	七〇、六八〇	
環境備費	四五、〇〇〇	
經常部計	一一、一五八、四〇四	
臨時部		
警察廳舍建築費	一一八、四四二	円
土木費	五九〇、四九五	
教育費	五一、〇五七	
勸業費	一八、七〇七	
土木補助費	二三七、五〇〇	
教育補助費	二四四、一五四	
衛生補助費	一三一、七四五	

勸業補助費	五五七、一九二	
統計補助費	三七、八〇五	
社會事業補助費	八五、〇〇〇	
移民奬勵補助費	五、〇〇〇	
兵庫縣神職會補助費	一、五〇〇	
兵庫縣皇典講究分所補助費	—	
帝國在鄉軍人會郡市聯合分會補助費	八、〇〇〇	
史蹟名勝天然記念物保存補助費	一、八〇〇	
史蹟名勝天然記念物調査費	三、五五八	
治防補助費	七、〇〇〇	
兵庫縣都市研究會補助費	一、〇〇〇	
市町村立小學校教員恩給金補充費	一、一九一、八三八	
市町村立小學校教員加俸資金補充費	九四、〇二五	
慈惠救濟基金補充費	一三、一四〇	
恩賜賑恤基金補充費	七、〇〇〇	

縣吏員職員恩給基金補充費	三八、三二八
公立學校職員年功加俸資金補充費	一〇〇、五九八
兒童就學奬勵資金補充費	—
市町村貸付金利子補給	三、九〇〇
神戸病院會計編入	五八、八七四
市町村立小學校教員恩給基金編入	—
警察費本年度支出額	四二、一六四
土木費本年度支出額	一、五三一、九三六
教育費本年度支出額	七七、五三六
勸業費本年度支出額	二三九、八七五
公園費本年度支出額	二〇、〇〇〇
建築工事監督費	七、一二六
特別會計運用金償還費	一八六、八五〇
縣債費	二、一七二、八八五
臨時部計	七、八八六、〇二四

歳出總計	一九、〇四四、四二八

尙特別會計に屬するものゝ內主なるものは次の通りである。

	歳出豫算額 円
兵庫縣縣吏員職員恩給基金	六三、九二八
兵度縣土木資金	七五七
阪神地方改發資金	六五九
兵庫縣教育資金	七四、〇〇二
兵庫縣市町村立小學校教員恩給金	一、三〇四、六一四
兵庫縣市町村立小學校教員加俸資金	一七八、六九二
兵庫縣公立學校職員年功加俸資金	一四一、六四五
兵庫縣男女青年團體事業奬勵資金	三、五八二
兵庫縣兒童就學奬勵資金	二〇五、〇五二
兵庫縣御成婚記念事業資金	七七、二二二
兵庫縣立神戸病院基金	二
兵庫縣立神戸病院費	五九七、七六六

兵庫縣衛生基金　七八八
兵庫縣慈惠救濟基金　六〇、九二五
兵庫縣恩賜賑恤基金　一三、一五三
兵庫縣社會事業奬勵基金　六五四
兵庫縣罹災救助基金　一三八、三四八
兵庫縣出征軍人家族及傷兵授護基金　二、〇八七
兵庫縣庶民病院費　一〇二、四三四
兵庫縣水力電氣事業費　二八八、〇七三
兵庫縣市部縣立學校奬學基金　三三四
兵庫縣市部育英基金　一五、一三七
兵庫縣郡部縣立學校奬學基金　六八四
兵庫縣郡部土木費金　二、三四四
兵庫縣郡部育英基金　一六、二一六

市　財　政

本縣に於ける市は明治二十二年市制を實施したる神戸、姫路の兩市を始め現在五を數へ

其の一般會計の昭和五年度豫算を示せば次の通りである。尙特別會計としては電氣事業、水道事業、學校、病院の經營等が其の主なるもので、神戸市の如きは特別會計を合算すれば實に四千貳百萬圓餘となる。

昭和五年度市歳出豫算（特別會計及追加豫算に屬するものを除く）

神戸市　一八、〇四七、五七七圓
姫路市　七五四、五八八
尼崎市　六一五、三一四
明石市　五八三、一五四
西宮市　六五四、一九一
計　二〇、六五四、八二四

町　村　財　政

昭和五年度に於ける町村歳出豫算總額は千九百拾六萬九千貳百四拾圓で之を明治十二年度の六拾七萬圓に比ぶれば實に三十一倍、明治三十五年度の參百四萬圓に比すると七倍に當る。

昭和五年度町村歳入歳出豫算（特別會計及追加豫算に屬するものを除く）

歳入

町村税	一〇、四四二、五三九円
財産收入	八三六、八三九
國庫下渡金	二、二二三、三二八
交附金	四一〇、八八〇
補助金	六四三、九〇五
寄附金	五七三、八四八
繰越金	一、〇六二、六六〇
公債金	五三五、二〇二
其の他	二、四四五、九七一
計	一九、一七五、一七二

歳出

會議費	一〇三、二八四円
役場費	三、〇〇八、九四五
土木費	一、一四六、八〇三
教育費	八、三八四、五七七
衛生費	一、二七〇、七三五
勸業費	一五二、七四四
警備費	一六六、六三六
財産費	一七〇、一一二
公債費	一、〇九八、六三〇
其の他	三、六六六、七七四
計	一九、一六九、二四〇

水利組合及水害豫防組合

昭和五年度に於ける水利組合歳出總額は拾八萬參千七拾壹圓で、組合數二十三、組合員數一萬六千二十五人で、この負債額八萬五拾壹圓である。

水害豫防組合は有馬、氷上の兩郡に各一組合あるのみで其の歳出額壹萬四百八拾五圓、組合員數二千四十八人を有して居る。

財産

公有財産

金券		
現金	五、九六九、六五六円	
預金	一、五九一、五九四	
貸出金	五一〇、〇一四	
有價證券	四、七四七、九一五	
計	一二、八一九、一七九	
物件		
土地	六八二、九七二坪	
建物	七八、八三五坪	
船舶	一二三	
電話線	…	
家畜	…	

市町村基本財産及其の他の財産價額

	市	町村
土地	三三、四〇三千円	三九、三三一千円

造林	…	五九七
建物	一八、九〇三	一八、四四八
有價證券	一、三二二	一、八二六
其の他	七〇	一、一九四
現金	一、六八六	六、六三五
計	五五、三八五	六八、〇三三

租稅負擔

國稅

本縣に於ける直接國稅の昭和四年度豫算總額は貳千參百拾九萬圓餘で、十年前の大正七年に於ける壹千六百八拾壹萬七千貳百四拾五圓に比ぶれば約一倍半となり、之を各稅目別に示せば次の通りである。

直接國稅		(昭和四年度)
地租	(地價に稅率を乘じたるもの)	三、四一五、一一三円
所得稅	(第一種及第三種は當初決定額 第二種は調定額)	一四、七二五、一六三

營業收益稅	（當初決定額）	二、八六五、一〇六
資本利子稅	（甲種は調定增額 乙種は當初決定額）	九一五、七〇六
鑛業稅		四九、二三七
相續稅	（當初決定額）	一、二一九、九九六
計		二三、一九〇、三二一
間接國稅		
酒稅		二九、三一八、三四一円
織物消費稅		二、一〇四、二四六
砂糖消費稅		八、四七三、七二八
取引所稅		六五、一八四
清涼飲料稅		四九七、四五八
酒精及酒精含有飲料稅		一四九、六六三
麥酒稅		三、六八八、九四三
計		四四、二九七、五六三
鑛區稅		

本縣に於ける縣稅の昭和五年度豫算總額は八百四拾八萬貳千貳百參圓で、十年前の大正七年に於ける四百拾五萬四千六百六拾參圓に比ぶれば約二倍以上となり、歲入總額の約四割五分に當つて居る。

今之を種別して示せば左の通りである。

（昭和五年度豫算）

地租附加稅	二、七二九、六〇〇円
營業收益稅附加稅	七六四、八八四
所得稅附加稅	一、九九六、七三一
鑛業稅附加稅	四、四七二
取引所營業稅附加稅	一七八
營業稅	一八九、七九三
雜種稅	一、六六六、二四六
家屋稅	八〇五、一一九
特別地稅	三二五、一八〇
計	八、四八二、二〇三

市税

神戸、姫路、尼崎、明石、西宮の五市に於ける市税の昭和五年度豫算總額は壹千七拾七萬參千圓餘で、十年前の大正七年に於ける參百貳萬九千貳百七拾貳圓に比ぶれば約三倍半となり、歳入總額の五割二分に當つて居る。

	（昭和五年度豫算）円
地租附加税	七四五、九九二
所得税附加税	一、八六二、九九一
營業收益税附加税	一、一四九、八五五
取引所營業税附加税	六、八五八
鉱税家屋税附加税	八四八、五八三
鉱税營業税附加税	二七、二〇五
鉱税雑種税附加税	二七四、〇一八
特別税鉄別割	二一、九二七
特別税家屋税	三、五一六、九八五
特別税營業税	二六八、九六一

特別税雑種税	二、〇〇八、六一九
特別税戸別割	二一、八七五
其の他	一九、七二九
計	一〇、七七三、五九八

町村税

縣下四百十九箇町村の昭和五年度町村税豫算總額は壹千四拾四萬圓餘を算し、十年前の大正七年に於ける四百八拾四萬五百四拾八圓に比ぶれば約二倍さなり、歳入總額の五割四分に相當して居る。

	（昭和五年度豫算）円
地租附加税	一、四七一、〇七三
所得税附加税	二〇〇、四一四
營業收益税附加税	四九三、六八一
鉱税特別地税附加税	四、四八二
鉱税營業税附加税	一八二、四七八
	一八七、八二一

縣稅雜種稅附加稅	一、三三六、一〇四
縣稅家屋稅附加稅	一、四一二、九一五
特別稅段別割	一〇、五三三
特別稅戶數割	五、一三九、八〇三
特別稅演劇興行稅	八五〇
其の他	二、三八五
計	一〇、四四二、五三九

現住一戶及一人當平均負擔額

本縣に於ける昭和四年度の諸稅總額は五千參百五拾貳萬六千圓餘で、大正元年の千四百六萬圓に比ぶれば約四倍に達して居る。これを平均一戶當に見れば九拾七圓貳拾壹錢、一人當り拾九圓七拾錢となり、各稅目毎に示せば次の通りである。

但し左表は直接國稅に付ては昭和四年末現在縣民總數、縣稅にありては神戶市民を除きたる數、市稅は縣下五市の市現住民總數、町村稅は各町村現住民總數で除したものである。

直接國稅（昭和四年度當初決定額又は調定濟額）	稅額	現住一戶平均	現住一人平均
	二三、一九〇、三二一円	四二・一三円	八・五四円
縣稅（昭和四年度豫算）	八、六八六、五二九	二四・〇六	四・五四
市稅（昭和四年度豫算）	一〇、二九六、四一七	四四・四七	一〇・一八
町村稅（昭和四年度豫算）	一一、四五二、八七四	三五・八九	六・六八

議會

本縣に於ける帝國議會、縣會、市會、町會、村會の議員數及選擧有權者數は左記の通りである。但貴族院議員の事實は大正十四年九月現在、衆議院は昭和三年二月現在、縣會は昭和二年九月現在、市會及町村會は昭和四年末現在の事實を示した。

議員	選擧有權者
貴族院 二	一八七
衆議院 一九	五二五、五四一
縣會 五六	四八五、八九〇
市會 一九二	一八〇、七九二
町村會 五九三	三五〇、六八四

官公吏

（昭和四年末現在）

縣官吏	三、七二六
縣吏員職員(本廳)	八九九
縣吏員職員(各廳)	四六七
縣立學校職員	一、三四〇
市吏員	二、二〇〇
町村吏員	九、八三一
計	一八、四六三

文書

昭和四年中に於ける文書收受發送件數は左の通りである。

	收受	發送
縣廳	二九三、二八八件	四五七、二五一件
警察部	二二四、〇九二	三六三、四八三

警察署	一、九八三、四七七
市役所	一、四一七、九〇七
町村役場	一、一三三、七六九
計	五、〇五二、五三三

警察

警察署

本縣は數地廣汎で海外交通の關門たる神戸港を控へ外來思想の波及するものも多く、之等對外關係極めて複雜で內外警察事務の繁多なること全國道府縣中稀に見る所で、施設、職員數等は東京、大阪に亞ぎて完備して居る。

（昭和四年末現在）

警察署	五四
派出所	二六五
駐在所	五八八
警察取締營業數	五四三、八七八

警察署	六六三、四八七
市役所	一、四一四、七四二
町村役場	九九七、七七八
計	三、八九六、七四一

警察職員

警察職員數は昭和四年末現在に於ては總數三千三百九十五人で東京、大阪に亞ぎて第三位にあり、內巡査一人に付平均戶數百九十三戶、人口九百八十八人に當つて居る。

	總數	警視	技師	警部	警部補	巡査	警察衛生技手	船長機關長	警察書記	其の他
警察部	三一九	四	二一	二三	二九	一一三	八三	—	八	四〇
神戶市	一、五六四	六	—	一四	六六	一、三九四	—	一〇	二九	四五
姬路市	一一九	一	—	一	五	一〇六	三	—	三	—
尼崎市	一〇九	一	—	一	五	九八	—	—	三	一
明石市	九三	一	—	一	三	八六	—	—	二	—
西宮市	一〇四	—	—	二	四	九〇	一	—	—	七
郡部	一、〇八七	一	—	三一	五〇	九六五	三一	—	九	—
計	三、三九五	一四	二一	七三	一六三	二、八五一	一一八	一〇	五四	九三

消防

（昭和四年末現在）

消防署	二
消防署職員	六三九人
消防組	四五五
組頭	四三五
小頭	五、二八二
消防手	一一五、三八二
家屋火災度數	六四一度
同損害	二、五二四、一六三円
山林原野火災度數	一四七度
同損害	三五、一〇〇円
船舶火災度數	七度
同損害	五四、一二八円

警察費豫算

（昭和五年度）

俸給諸給	三、三〇〇、三二八円
廳費	四八五、一八七
機密費	三〇、〇〇〇

營繕費	二〇四、一〇二
消防費	二一八、七二三
其の他	四四、一二五
計	四、二八二、四六五

火災（昭和四年）

	火災度數	罹災物件	燒失面積	損害見積高
家屋	六四一	一、一二六戸	一九、二三一坪	二、五二四、一六三円
山林原野	一四七	—	四、四二四段	三五、一〇〇
船舶	七	七	—	五四、一二八
計	七九五	一、一三三	—	二、六一三、三九一

之を原因別に示せば次の通りである。

	失火	放火	雷火不審火
家屋	四九七	四四	一〇〇
山林原野	一二一	四	二二
船舶	六	—	一

計	六二四	四八	一二三

棄兒（昭和四年）

	男	女	計
生棄兒	四	三	七
死棄兒	—	一	一
計	四	四	八

變死者（昭和四年）

	男	女	計
自殺	四二一	二六一	六八二
被殺害	一〇〇	三九	一三九
其の他	四一六	一五一	五六七
計	九三七	四五一	一、三八八

自殺者六百八十二人を自殺方法に示せば次の通りである。

	男	女	計
縊死	一五四	六一	二一五

入水	一〇一	一二六	二二七
及物	九	—	九
劇毒藥	五六	五一	一〇七
汽車及電車	九五	二三	一一八
其の他	六	—	六
計	四二一	二六一	六八二

海外旅券下附人員（昭和四年）

旅行先	男	女	計
北米合衆國	一七一	三九	二一〇
關領印度	七一	二四	九五
南米諸國	四四	三五	七九
比律賓	六六	一三	七九
其の他	二一八	四八	二六六
計	五七〇	一五九	七二九

興行

		場數	觀客人員
劇場	定設	六五	四、九九八、一一一
	假設	五八八	三六一、三二八
寄席	定設	三七	一、一二二、〇四四
	假設	一九五	一六八、六五〇
活動寫眞	定設	六五	九、〇九六、三〇六
	假設	四四九	三五二、二二五

宿屋止宿者

男	七〇四、〇一七
女	一二八、九二二
計	八三二、九三九

藝娼妓

	藝妓共同事務所又は券番及遊廓	置屋又は貸座敷	藝妓又は娼妓數	藝妓花費上高又は遊客消費高
藝妓	四三	八四四	三、七六五	六、七二四、一三四円
娼妓	一〇	二二七	二、四九〇	三、四二五、三二〇

行政執行

法第一條檢束者　三一、四一三
密淫檢擧人員　四八二

遺失物

	件數	拾得
遺失	二六、六七七	二九〇、〇三〇円
金員	二〇八、六八四円	八一、五九〇円

雜

件數

	被害	發見
盜	一二九	六一
竊盜	二六、三〇八	一〇、一七八
詐欺	四、四八七	二、一七四
橫領	四、四八八	二、五四一
計	三三、三九二	一四、九五四

被害價額　檢擧人員

	七、七六〇円	一二五
	九七六、〇〇六	四、九五九
	八五三、二六	二、七九八
	六〇八、七四一	一、五六五
	二、四四四、七三三	九、四二七

衞生

病院

本縣に於ける病院は公私立を合せて現在百六十七を算し、逐年增加の傾向がある。

（昭和四年十二月末日現在）

縣立	二
市立	二
町立	三
私立	一六〇
計	一六七

傳染病院及隔離病舍

（昭和四年十二月末日現在）

病院病舍	四四八
病床數	四、五五〇

醫師其の他

本縣に於ける昭和四年末現在の醫師總數は二千三十八人で、一人に對し現住戸數二百七十、人口千三百三十三人に當つて居る。之を免許實格別に見れば專門學校卒業者最も多く

牛數を占め大學卒業、試驗及第之に亞ぎ從來開業のものは逐年減少の傾向がある。

產婆は總數二千二百五十人で、一人に對し現住戶數二百四十四、人口千二百七人に當つて居る。之を免許資格別に見れば試驗及第最も多く其の約八割六分に相當し從來開業、學校卒業等之に亞ぐ。

（昭和四年十二月末日現在）

	男	女	計
醫師	一、九六九	六九	二、〇三八
齒科醫師	六一六	二五	六四一
藥劑師	八五一	五五	九〇六
產婆	—	二、二五〇	二、二五〇
看護婦	—	四、三九七	四、三九七
鍼術	六二	一六	七八
灸術	九六	三五	一三一
按摩術	六四九	九一七	二、五六六
鍼按術	六八	一五	八三
灸按術	二八	一三	四一

鍼灸按術	四四一	五九	五〇〇
藥種商	一、一五二	（男に含む）	一、一五二
柔道整復術	六〇	（男に含む）	六〇
計	六、九九二	七、八五一	一四、八四三

傳染病

本縣は海外通商の門戶であり之に伴ひて傳染病の直接傳播の危險多く其の患者數は毎年消長定まらず、縣に於ては衞生思想の普及宣傳に努めると共に市町村醫の設置、傳染病院及隔離病舍の建築、豫防注射の普勵、食品の取締、上下水道の設備等其の他諸施設に於て最善の方法を講じつゝあるのである。現在に於ては病院、病舍の數は四百四十八を算し各市町村に於ては一箇所以上を有せないものは無き狀態と成つて居る。

（昭和四年）

	患者	死亡
虎列拉	一四	一二
赤痢	一、一八八	四〇〇
腸窒扶斯	一、九五七	四〇五

パラ窒扶斯	二〇九	二七	
痘瘡	一	—	
猩紅熱	二〇六	七	
實布垤里亞	六一三	一八九	
流行性腦脊髓膜炎	一八	七	
ペスト	—	—	
發疹チフス	—	—	
計	四、二〇六	一、〇四七	

（昭和四年）

種	痘			
	善感	不善感	未檢診	計
第一期	六三、四八一	一、四六六	二、一七四	六七、一二一
第二期	四二、六四八	一九、一八七	一、三七九	六三、二一四

（昭和四年）

學校生徒トラホーム患者	學校	檢診數	患者	生徒百に付患者
中等學校	一〇六	五〇、五七七	一、八五二	三・六六
小學校	六三四	三七〇、一二〇	四三、三二八	一一・七一

衛生諸費

本縣に於ける昭和五年度の衛生費豫算總額は四拾參萬壹千五百餘圓で、特別會計に屬する縣立神戸病院及庶民病院費を合すれば百拾參萬壹千餘圓で、大正五年の參拾七萬五千圓に比ぶれば約三倍に達して居る。

傳染病豫防費	五七、八四九円
癩豫防費	三三、九二三
檢黴費	七三〇
縣立福原病院費	五〇、九一八
代用精神病院費	四二、九〇〇
縣立神戸病院費	五九七、七六六
衛生補助費	一三一、七四五
衛生職員俸給及旅費	八〇、八二七
庶民病院費	一〇二、四三四
衛生諸費	三二、六八六
計	一、一三一、七七八

兵庫縣生產物總價額　昭和四年

總價額	八〇二、六七〇、七八二	円
農產	一三〇、九八〇、七二五	
畜產	一二、五八五、九四二	
林產	七、四四四、九二一	
鑛產	三、八七〇、四六四	
水產	一〇、七一五、五三九	
工產（昭和三年）	六三七、〇七三、一九一	
現住一戶當	一、四五八	
同一人當	二九五	

附

錄

1 産業視察案内

普通農業

米麥作

明石郡伊川谷村、玉津村
津名郡山田村、多賀村
三原郡賀集村、阿萬村

神力稻原產地

揖保郡御津村

甘藷及蔴

武庫郡大庄村、武庫村、鳴尾村

蔴

武庫郡鳴尾村
有馬郡有野村
明石郡垂水町

煙草

武庫郡甲東村
飾磨郡廣村

蔬菜栽培

明石市
武庫郡武庫村、大庄村、瓦木村
山田村
飾磨郡高岡村、廣村
揖保郡網干町

栗

川邊郡中谷村、西谷村
氷上郡小川村

柑橘

赤穗郡赤穗町
津名郡志筑町、佐野町
三原郡倭村

枇杷

明石郡垂水町
津名郡野島村

桃　川邊郡川西町、伊丹町

葡萄　姫路市
武庫郡甲東村
川邊郡伊丹町

梨　養父郡關宮村
氷上郡春日部村

苗木及苗木病蟲驅除　川邊郡長尾村、稻野村

杞柳　城崎郡中筋村、新田村、國府村

葉煙草　明石郡岩岡村

農業經營　川邊郡園田村　松本種吉
朝來郡粟鹿村　村上定次郎

飾磨郡安室村　田寺鯛治
三原郡榎列村　古川賢作
三原郡阿萬村　樺田長作
三原郡市村　山口敬一

農事共同施設
美囊郡口吉川村殿畑
加古郡神野村石守
出石郡神美村森尾
朝來郡竹田町加都
養父郡糸井村林垣
氷上郡幸世村田中

優良町村農會
川邊郡稻野村農會
美囊郡口吉川村農會
印南郡上莊村農會
赤穗郡赤松村農會
城崎郡日高町農會
氷上郡柏原町農會

優良部落農會
三原郡阿萬村農會
武庫郡良元村鹿鹽部落農會
川邊郡稻野村池尻部落農會
有馬郡大澤村春入部落農會
加西郡富田村窪田部落農會
美囊郡淡河村南僧尾部落農會
揖保郡神岡村追分部落農會
赤穗郡赤松村河原部落農會
宍粟郡萬澤村東下野部落農會
出石郡神美村森尾部落農會
養父郡糸井村林垣部落農會
朝來郡竹田町奥部部落農會

縣立農事試驗場　明石市
同　但馬分場　朝來郡和田山町
同　園藝試作場　武庫郡良元村
同　酒造米試驗地　加東郡福田村

同　蔬菜採種場　揖保郡旭陽村
同　委託試驗地

種別	所在地	擔當者氏名
米麥	有馬郡三田町	井上喜作
同	神崎郡鶴居村	古家眞治
同	揖保郡小宅村	福水茂十郎
同	佐用郡德久村	舟引庄之助
同	宍粟郡三方村	久保田榮之助
同	美方郡村岡町	中村庄太郎
同	津名郡多賀村	東田賢一
米	美囊郡奥吉川村	東田直太郎
同	加古郡別府町	別府町農會
同	城崎郡五莊村	森田恩
麥	氷上郡久下村	藤本由太郎
米	多紀郡城北村	小林彌一郎
梨	城崎郡香住町	濱上重義
同	氷上郡春日部村	植田倉藏
溫州蜜柑	赤穗郡鹽屋村	平尾杉松

温州蜜柑　三原郡倭文村　北谷邦光
西洋蔬菜　有馬郡有野村　前切藤三郎
早熟栽培(甘藷)　飾磨郡入木村　磯部元一
促成栽培(茸、蘭活)　明石郡林崎村　伊藤虎次郎
稻苗螟虫除　川邊郡長尾村　寺西源之助
稻熱病防除　明石郡平野村　大谷豊市
駐立指導果樹園
柑橘(ネーブル、オレンヂ)　船越定次郎
同　(鳴門蜜柑)　三原郡榊村　平岡勘三郎
枇杷(田中)　津名郡佐野町　土居助一
桃　(橋早生、小林、大平)　明石郡垂水町　岸本善次郎
梨　(早生赤、二十世紀)　川邊郡川西町　町側茂一
柿　(似タリ、富有)　養父郡關宮村　藤林留一
同　(出石御所、庄右衛門)　多可郡松井庄村　徳田亮市
葡萄(ブラックハンブルグ、シヤスラローズ、マスカットハンブルグ)　出石郡室埴村　族谷惣右衛門
駐立農學校　姫路市　松尾芳松
同　三田農學校　加古郡平岡村
同　上郡農學校　有馬郡三田町
同　佐用農蠶學校　赤穂郡上郡町
同　農業試驗場　佐用郡佐用町
同　蠶業學校　城崎郡日高町
同　(同)　養父郡八鹿町

養蚕同業組合
佐用郡蚕糸同業組合
朝來郡蚕糸同業組合

養蚕組合
多可郡中町
佐用郡德久村
宍粟郡富栖村、下三方村生栖
出石郡小坂村長砂
養父郡糸井村林垣、西谷村藏垣、養父市場村高中
朝來郡梁瀬町、東河村久田和、東河村宮、東河村白井、竹田町加都
氷上郡竹田村川西、船城村

蠶種製造
佐用郡長谷村　小林儀藏
養父郡廣谷村　松田源治
同　口大屋村　尾崎一
同　廣谷町　但馬蠶種株式會社
朝來郡竹田町　山陰蠶種株式會社

模範桑園　氷上郡新井村、船城村

製絲
郡是製絲株式會社工場　宍粟郡山崎町
城崎郡日高町
養父郡八鹿町、養父市場村
朝來郡梁瀬町
氷上郡成松町
小口組和田山製絲場　養父郡大蔵村
片倉製絲紡績株式會社姫路製絲所　飾磨郡城南村

⑥組姫路製絲所　飾磨郡城南村

乾繭倉庫
氷上郡柏原町
兵庫縣東部乾繭販賣利用組合
城崎郡日高町
兵庫縣北部乾繭販賣利用組合

穀物檢査
著名なる穀物移出檢査地
主として米　福知山線三田驛（酒造米）、播丹線大門驛（酒造米）、山陽線明石驛、同加古川驛、同網干驛、同上郡驛
主として稞麥　津名郡洲本港、三原郡福良港、播丹線社驛
主として小麥　山陽線土山驛、同姫路驛、播但線福崎驛

小麥生產檢査
神崎郡福崎町
揖保郡網干町

耕地整理
開田溜池
有馬郡中野村末野耕地整理組合
多可郡中町牧野耕地整理組合
加古郡雁戸井耕地整理組合
神崎郡西光寺野耕地整理組合
氷上郡神樂村大名草耕地整理組合
同　葛野村三方耕地整理組合
三原郡大野村大野耕地整理組合
同　神代、市、榎列三箇村耕地整理組合
地下水利用
氷上郡葛野村大谷上新庄耕地整理組合
同　葛野村大谷下新庄耕地整理組合

揚水機
出石郡小坂村耕地整理組合
多紀郡味間村吹水利組合
干拓
揖保郡御津村干拓耕地整理組合
同　大津村大津新開耕地整理組合
區劃整理
城崎郡五莊村、田鶴野村、三江村耕地整理組合

農業倉庫
大中信用購買販賣組合　山陽線土山驛前
二見町信用販賣購買組合　宇治電東二見停留所
手柄信用販賣購買利用組合　姫路市貨物驛前
石海信用購買販賣利用組合　山陽線網干驛前
御津信用購買販賣組合　揖保郡御津村
日高信用購買販賣利用組合　山陰線江原驛前
福良信用販賣組合　三原郡福良港

產業組合
神戸信用組合　神戸市三宮町一丁目六一番地ノ五
神戸第一信用組合　神戸市三宮町一丁目一七〇番屋敷ノ三
購利組合神戸消費組合　神戸市葺合八幡通五丁目六番地ノ一
姫路信用組合　姫路市博勞町九四九五番地
尼崎信用組合　尼崎市別所村八三〇番地
御影信用組合　武庫郡御影町御影字上弓場七五番地
灘購買組合　武庫郡住吉村宮西三一〇番地
東谷信購販組合　川邊郡東谷村見野字西詰七番ノ五

黒田庄信利販賣組合	多可郡黒田庄村喜多一八七番地ノ一
石守信賣利販組合	加古郡神野村石守一四五三番地
手柄村信販賣利組合	飾磨郡手柄村栗山三四番地
石海信賣利販組合	揖保郡石海村福地三六八番地
江川信賣販利組合	佐用郡江川村豐福二〇二番地ノ一
下三方信賣販利組合	宍粟郡下三方村福知一一一番地ノ一
滝瀧村信賣組合	城崎郡滝瀧村山宮一三二八番地
上久下信販賣利組合	氷上郡上久下村下瀧二三七番地ノ二
春日部信利販賣組合	氷上郡春日部村多利九四六番地
大路村信販賣組合	氷上郡大路村中山一二八四番地
生穂信賣販利組合	津名郡生穂町生穂中ノ内一八一六番地
淺野信販賣利組合	津名郡淺野村淺野南組二七〇番地ノ一

牧畜

酪農

明石郡玉津村	
加西郡下里村、多加野村	
神崎郡砥堀村、瀬加村、鶴居村	
揖保郡林田村	
多紀郡城北村	
津名郡洲本町、多賀村	
三原郡大野村、賀集村、神代村、廣田村、藤井村煉乳所	

郡畜産組合

神崎郡田原村	
加東郡畜産組合	

美方郡温泉町	
氷上郡柏原町	
津名郡洲本町	
三原郡市村	

家畜市場

神戸市東尻池	
加東郡社町	
加古郡加古川町	
印南郡西神吉村	
飾磨郡高岡村	
揖保郡龍野町	

畜牛肥育

有馬郡大澤村、長尾村、三輪町	
美嚢郡中吉川村、志染村	
加東郡社町、滝野町、上滝田村	
多紀郡南河内村、城北村、八上村、岡野村、城南村	

繁種畜場

本場	飾磨郡高岡村
分場	養父郡宿南村
同	津名郡洲本町

養鶏

印南郡養鶏購買販賣利用組合（米田町）	
揖保郡揖西村養雞組合	
宍粟郡安師村養雞組合	
津名郡農會	
津名郡淺野村養雞組合	
三原郡志知村養雞組合	

養豚

有馬郡三田町	
明石郡林崎村	
多紀郡篠山町	

林業

製炭

木炭同業組合	川邊郡東谷村(黒田炭)
	佐用郡石井村(白炭)
	宍粟郡奥谷村(白炭)
	養父郡建屋村(白炭)
	美方郡射添村(白炭)
造林	元佐用郡役所
	元宍粟郡役所
	多可郡黒田庄村
	神崎郡越知谷村
	宍粟郡富栖村(林野統一植林)
	朝來郡生野町
	美方郡温泉町
	氷上郡上久下村・葛野村
	多紀郡大山村
竹林	有馬郡山口村、有野村(苦竹)
地盤保護工事	多可郡中町(苦竹)
	揖保郡太市村(孟宗畑)
	氷上郡和田村(苦竹)、葛野村(白皮竹)
	多紀郡篠山町(雲紋竹)
	多紀郡日置村(縞竹)
森林組合	印南郡上荘村
造林用苗木	朝來郡生野町
	養父郡八鹿町
	氷上郡苗木組合(柏原町)
伐木及運材	神崎郡越知谷村
椎茸	有馬郡三輪町
	飾磨郡雲雀山

椎茸	神崎郡福崎町
	氷上郡柏原町
	城崎郡中竹野村
水産業	縣水産試驗場 明石市
	縣水產試驗場 神崎郡山田村
	山田養魚場
	縣水產會 神戸市
	漁業組合 明石郡林崎村
	赤穗郡坂越浦
	同 相生町
	城崎郡港村、香住町
	津名郡炬口浦、室津浦
副業	
竹細工	有馬郡山口村
場苞	美嚢郡一圓
	加西郡北條町
半當細工	津名郡 三原郡一圓同業組合
	神戸市
	明石市
蓮臥檢查	神崎郡蓮臥組合
凍蒟蒻	多可郡杉原谷村 兵庫縣凍蒟蒻同業組合
凍豆腐	多可郡野間谷村 兵庫縣凍豆腐同業組合
杞柳栽培	城崎郡

2 主要公營事業

杞柳製品	城崎郡豐岡町
	出石郡出石町
藥草栽培	

電氣事業	
縣水力電氣	氷上郡上久下村、鴨庄村、春日部村
神戶市電軌道	神戶市（有馬郡道場村千苅貯水池、神戶市烏原貯水池、布引貯水池）
電燈事業	
神戶市	
尖栗郡蔦澤村	
上水道	
神戶市	
姬路市	
尼崎市	

素麵製造	氷上郡和田村（サフラン）
	姬路市
	揖保郡龍野町

明石市	
西宮市	
武庫郡大社村	
加古郡高砂町	
城崎郡豐岡町、城崎町	
多紀郡篠山町	
下水道及下水溝渠	
神戶市	
明石市	
姬路市	
尼崎市	

西宮市	
武庫郡精道村、住吉村、御影町	
明石郡垂水町	
美囊郡三木町	
加古郡加古川町、高砂町、氷丘村	
飾磨郡英賀保村	
揖保郡網干町	
赤穗郡相生町	
城崎郡豐岡町、口佐津村	
朝來郡生野町	
氷上郡成松町	
津名郡洲本町、由良町、富島町、鐘田村	

公園	
縣立舞子公園	
縣立明石公園	
神戶市海岸遊園地、東遊園地、歌訪山遊園、大倉山公園、會下山遊園地、湊川公園	
姬路市姬山公園	
尼崎市庄下遊園地	
明石市中崎遊園地	
有馬郡三田町三田公園、有馬町鈴ヶ瀧遊園、愛宕山公園	
多可郡西脇町童子山公園	
加古郡高砂町高砂公園	
飾磨郡手柄村手柄山公園	
揖保郡室津村室津公園	
城崎郡豐岡町龜山公園、城崎町西山公園、竹野村賀島公園、香住町岡見公園	
朝來郡生野町生野公園	
多紀郡篠山町玉地山公園	
津名郡洲本町三熊公園、假屋町假屋公園	

音樂堂	

公設住宅
神戸市
神戸市
姫路市
尼崎市
明石市
西宮市
川邊郡伊丹町
加西郡北條町
加古郡加古川町
印南郡大鹽町
城崎郡豐岡町、五莊村
多紀郡篠山町

公設食堂
神戸市

公設市場
神戸市
姫路市

病院
尼崎市
明石市
西宮市
武庫郡今津町、魚崎町
川邊郡伊丹町

縣立神戸病院、諏原病院
神戸市立屯田療養所、神戸市立市民病院、恩賜財團濟生會病院
城崎郡豐岡町立病院
美方郡村岡町立病院
氷上郡柏原町立病院

診療所
神戸市
尼崎市
明石市
西宮市
武庫郡今津町、御影町、住吉村

川邊郡伊丹町
加古郡高砂町

公會堂
兵庫縣
明石市
西宮市
武庫郡精道村
川邊郡伊丹町
有馬郡三輪町
加東郡社町
加古郡加古川町、高砂町
印南郡米田町
赤穗郡赤穗町、相生町、上郡町
養父郡八鹿町
多紀郡篠山町
津名郡郡家町
三原郡福良村

屠場
神戸市
姫路市
明石市
西宮市

職業紹介所
神戸市
姫路市
尼崎市
明石市
美方郡温泉町

縣立兒童研究所
神戸市

市立兒童相談所
神戸市

浴場
有馬郡有馬町
城崎郡城崎町
美方郡温泉町

3 社會事業

感化事業

縣立土山學園	明石郡魚住村	
岡田修養保護院	神戸市古川町	
慶德寮	同	荒田町三丁目
武庫乃里	同	西灘
神戸天王谷學園	同	天王谷
神戸實業學院	同	同
暉精寮	同	池田村牛三郎

公設住宅

（主要公營事業欄參照）

公設食堂

（同　上）

公設市場

（同　上）

職業紹介所

神戸市立中央職業紹介所	神戸市相生町一	
神戸市立春日野職業紹介所	神戸市吾妻通一	
同　湊川職業紹介所	同　湊川遊園地	
同　林田職業紹介所	同　大橋町三	
同　東部勞働紹介所	同　東遊園地	
同　西部勞働紹介所	同　川崎町	
尼崎市立職業紹介所	尼崎市	
西宮市職業紹介所	西宮市六湛寺	
明石市職業紹介所	明石市大明石町	
姫路市職業紹介所	姫路市北條口	

結核療養所

神戸市屯田療養所	神戸市夢野村	

診療所

恩賜財團濟生會兵庫縣病院	神戸市日暮通五	
市立市民病院	同　三番町一	
同　西分院	同　神樂通四	
同　東分院	同　大日通四	

財團法人イエス團友愛救濟所	神戸市吾妻通五	
日本赤十字社兵庫支部診療所	同　楠町七	
高野山療養院	佐用郡平福町	
姫路市診療所	姫路市本町	
尼崎市診療所	尼崎市舊城內	
明石市診療所	明石市大明石町	
西宮市診療所	西宮市久保町	

地方改善

清和會	兵庫縣廳內	
清和會支部	各郡市	
清風會	神戸市中山手通八	
協議會	同　五番町五	

孤兒院

神戸孤兒院	神戸市中山手通七	
財團法人神戸報國義會	同　荒田町四	
女子教育院	同　下山手通七	
日之出女兒園	明石市大藏谷	

兒童保育

財團法人戰役記念保育會	神戸市役所內	
同　芦原保育所	同　芦原通六	
同　八幡保育所	同　磯上通五	
同　楠保育所	同　楠町七	
同　水笠保育所	同　水笠通三	
神戸市生田川保育所	同　葺合南本町五	
同　兵庫保育所	同　東出町二	
同朋保育園	同　下山手通二	
誠佛兒童園	同　中山手通三	
尼崎託兒所	尼崎市舊城內	

養老院

神戸市救護院	神戸市西代轟谷	
神戸養老院	同　都由乃町二	

婦人救護

財團法人神戸婦人同情會	神戸市宮本通二	

苦學生保護

神戸自助學院	神戸市再度筋	
免困保護		
財團法人神戸愛隣館	神戸市平野楠谷町	
同　兵庫縣聯合保護會	同　菊水町	
神戸佛教聯合慈友會	同　中道通	
財團法人播磨保正會	姫路市景福寺町	
同　自成會	津名郡洲本町	
神戸善照會	神戸市中道通九	
授業保護		
財團法人神戸矯修會	同　濵砂通二	
不具者救濟互助會	同　脇塚町	
宿泊救護		
神戸市西部共同宿泊所	神戸市芦原通	
同　東部共同宿泊所	同　神若通	
神戸海員ホーム	同　湊山町	
協和寮	同　熊内橋通二	
盲人保護		
神戸盲人後援會	神戸市野崎通三	
神戸盲唖院	同　加納町二	

4 神社

官國幣社

社格	社名	祭神	祭日 月日	鎮座地
官幣大社	廣田神社	天照大御神荒魂 外四	三・一六	武庫郡大社村 廣田
官幣大社	伊弉諾神社	伊弉諾尊	四・三	津名郡多賀村
官幣中社	生田神社	稚日女尊	四・一五	神戸市 下山手通一丁目
官幣中社	長田神社	事代主神	一〇・一八	同　長田町三丁目
官幣中社	海神社	底津綿津見神 外三	一〇・一一	明石郡垂水町
國幣中社	伊和神社	大己貴神 外二	一〇・一五	宍粟郡神戸村 伊和
國幣中社	出石神社	出石八前大神	一〇・二〇	出石郡神美村 宮内
別格官幣社	湊川神社	贈正一位楠朝臣正成公 外八	七・二	神戸市 多聞通三丁目

縣社

社名	祭神	祭日 月日	鎮座地
七宮神社	大己貴命 外三	三・八	神戸市 北宮内町
和田神社	天神中主命 外二	五・三	同　和田宮通三丁目
敏馬神社	素盞嗚大神 外三	一〇・一三	同　岩屋
射楯兵主神社	射楯神、兵主神	一一・二四	姫路市本町
姫路神社	酒井正親	七・三	同　本町
廣峯神社	素盞嗚尊 外三	一〇・一七	同　廣峯山
貴布禰神社	高龗神 外二	八・一	尼崎市 尼崎町

岩屋神社	伊弉諾尊	外五	一〇・一三	明石市	戎町
伊弉册神社	伊弉奈美大神	外一	一〇・九	同	當津村
柿本神社	柿本大神	外三	四・一七	同	大明石
西宮神社	西宮大神		九・二三	西宮市	
福應神社	事代主神		一〇・一三	武庫郡	今津町
岡太神社	天御中主命	外五	一〇・一一	同	鳴尾村 小松
木住吉神社	表筒男神	外五	五・一三	同	住吉村
猪名野神社	猪名野座大神	外七	一〇・一四	川邊郡	伊丹町
多田神社	源 頼義	外四	一〇・一一	同	多田村
天滿神社	菅原道眞	外五	一〇・一	有馬郡	三田町
公智神社	久々能智命	外二	一〇・一六	有馬郡	山口村 下山口
駒宇佐八幡神社	應神天皇		九・一五	同	本庄村 上本庄
住吉神社	底筒男命	外三	一〇・二九	明石郡	魚住村 中尾
林神社	少童海神	外四	一〇・一四	同	林崎村 林
佐保神社	天照皇大神	外四	一〇・一六	加東郡	社町 社

垣田神社	表筒男命	外三	一〇・九	同	下東條村 小田
稻爪神社	稻蒼魂神	外二	一〇・一四	多可郡	中町 糀屋
荒田神社	少名彦神	外二	一〇・一七	同	松井庄村 諏原
兵主神社	大巳貴神		一〇・一四	同	黒田庄村 岡
住吉神社	底筒男命	外六	四・二	加西郡	北條町 北條
高砂神社	素盞嗚命	外二	一〇・一〇	加古郡	高砂町
天滿神社	天穗嗚命	外二	一〇・一三	印南郡	曾根町
生石神社	少彦名神	外一	一〇・一八	同	阿彌陀村
松原八幡神社	息長足比賣命	外二	一〇・一三	飾磨郡	白濱村
英賀神社	英賀彦神	外四	一〇・一八	同	英賀保村
祝田神社	高龗神	外一	一〇・九	揖保郡	林田村 上構
粒座天照神社	天照國照彦火明命		一〇・一三	同	龍野町 日山
阿宗神社	神功皇后	外二	一〇・一五	同	誓田村 廣山
中臣印達神社	五十猛神		一〇・一〇	同	揖保村 中臣
賀茂神社	別雷神	外二	四・一四	同	室津村 室津

魚吹八幡神社	品陀和氣命	外二	一〇・二一	同 旭陽村	宮內
夜比良神社	玉作大巳貴命		一〇・一九	同 揖保村	揖保上
八幡神社	足仲彥命	外三	一〇・八	同 林田村	八幡
高嶺神社	須佐之男命	外三	四・一〇	赤穗郡 上郡町	山野里
大避神社	天照皇大神	外二	一〇・一一	同 坂越村	
大石神社	大石良雄	外四七	四・一四	同 赤穗町	
八幡神社	應神天皇	外二	一〇・一四	同 尾崎村	
八保神社	豐愛姬命	外二	一〇・一五	同 船坂村	八保
佐用都比賣神社	市杵島姬命	外三	一〇・三〇	佐用郡 佐用町	本位田
御形神社	葦原志許男神	外四	一〇・一〇	宍粟郡 三方村	森添
八幡神社	應神天皇	外三	一〇・一四	同 山崎町	門前
日吉神社	大國主命		四・二一	城崎郡 豐岡町	本町
小田井縣神社	國作大巳貴命		四・一〇	同 同	小田井
諸杉神社	多遲摩母呂須玖神		二・一八	出石郡 出石町	內町
大生部兵主神社	健速須佐之男命		一〇・八	同 高橋村	藥王寺

佐々伎神社	少彥名命		九・一五	同 合橋村	佐々木
名草神社	名草彥命		三・二五	養父郡 八鹿町	石原
養父神社	倉稻魂命	外四	一〇・一〇	同 養父市場村	
粟鹿神社	彥火々出見尊		一〇・一七	朝來郡 粟鹿村	粟鹿
黑野神社	天津彥々火瓊々杵尊	外二	九・一九	美方郡 村岡町	村岡
大歲神社	大歲神		一〇・九	同 西濱村	居組
佐地神社	天宇受賣命		一〇・九	氷上郡 佐治町	小倉
兵主神社	大名持神	外二	一〇・一七	同 黑井町	黑井
八幡神社	譽田別命	外二	一〇・一五	同 柏原町	柏原
阿陀神社	吾田鹿葦津比賣命	外二	八・三一	同 春日部村	
櫛岩窓神社	櫛岩窓命	外一	四・二五	多紀郡 大芋村	福井
神田神社	大巳貴命		一〇・九	同 大山村	大山上
春日神社	健甕槌命	外四	四・三	同 城北村	黑岡
大賣神社	大宮賣神	外九	五・一	同 城北村	寺內
佐佐婆神社	天忍穗耶尊	外六	九・一	同 畑村	畑宮

波々伯部神社	素盞嗚命	八・一	同 日置村 波々伯部
河上神社	河上大神外三	四・二五	津名郡 鮎原村 河上
八幡神社	譽田別尊外二	九・一五	同 洲本町
八幡神社	應神天皇外二	一〇・一五	同 鳥飼村 鳥飼
大和大國魂神社	大和大國魂命	四・一	三原郡 榎列村 幡多

5 史蹟天然記念物 （内務大臣指定）

五色塚（千壷）古壷小壷古墳	明石郡垂水町	加古郡高砂町
壇上山古墳（第一、第二、第三古墳）	飾磨郡御國野村	同 尾上村
播磨國分寺趾	同	印南郡曾根町
大石良雄宅趾	赤穗郡赤穗町	赤穗郡坂越村
處女塚	武庫郡御影町	養父郡八鹿町
和田岬砲臺	神戸市	多紀郡日置村
西宮砲臺	西宮市	三原郡
鶴山鶴蕃殖地	出石郡室埴村	同 賀集村
高羽の樟	武庫郡六甲村	朝來郡山口村
		姫路市

6 國寶建造物 （＊印は國寶をも併有す）

所有社寺	所在地	名稱
＊本興寺	尼崎市	開山堂、三光堂
西宮神社	西宮市	本殿、表大門四脚門
八幡神社	武庫郡山田村	塔婆（三重塔）
若王子神社	同 同	本殿
八幡神社	川邊郡西谷村	本殿
御靈神社	有馬郡貴志村	本殿
住吉神社	同 藍村	本殿
＊高寶布神社	同 高平村	本殿
＊太山寺	明石郡伊川谷村	本堂、仁王門
石峰寺	美嚢郡上淡河村	中堂（藥師堂）、塔婆（三重塔）
天津神社	同 北谷村	本殿
＊淨土寺	加東郡小野町	本堂、藥師堂、淨土堂（阿彌陀堂）

八幡神社	加東郡 小野町	拜殿、本殿
朝光寺	同 米田村	本堂
*一乘寺	加西郡 下里村	塔婆(三重塔)、妙見堂、辨天堂、護法堂
*鶴林寺	加古郡加古川町	本堂、太子堂、鐘樓、護摩堂、常行堂
圓教寺	飾磨郡 曾左村	大講堂、鐘樓、金剛堂
彌勒寺	同 菅野村	本堂
*溫泉寺	城崎郡 城崎町	本堂(大悲殿 別名圓通閣)
中島神社	出石郡 神美村	本殿
名草神社	養父郡 八鹿町	塔婆(三重塔)
八幡神社	氷上郡 柏原町	社殿
斑鳩寺	揖保郡 斑鳩村	塔婆(三重塔)

7 寶

所有社寺	所在地	名稱
湊川神社	神戸市多聞通二	段威腹卷一領、紙本墨書法華經奥書一幅

藥仙寺	同 南逆瀬川町二	絹本着色施餓鬼圖一幅
眞光寺	同 須佐通一	紙本着色遊行緣起十卷(詞行顯筆)
德照寺	同 中山手八	銅鐘一口
歡喜寺	同 龍池通七	木造十一面觀音立像一軀
福昌寺	同 兵庫羽坂通二	木造文殊菩薩坐像一軀、普賢菩薩坐像一軀
福祥寺	同 須磨町	絹本着色普賢十羅刹女像一幅、木造十一面觀音立像一軀
大哉寺	同 湊地方	木造菩薩立像
能福寺	同 北逆瀬川町	十一面觀音立像一軀
姬路神社	姬路市 本町	太刀銘包永一口
射楯兵主神社	同 同	太刀銘定附華卷及中心斷片一口
*本興寺	尼崎市	木造日隆上人坐像一軀(傳淨傳作)、太刀銘恒次一口
櫻井神社	同 同	太刀銘守家拵蒔繪太刀一口
柿本神社	明石市	後櫻町天皇宸翰短籍四十五葉、仁孝天皇宸翰及一座短籍四十九葉

月照寺　明石市　櫻町天皇宸翰及一座短籍(五十葉)一帖

昌林寺　武庫郡今津町　木造菩薩大師坐像一軀、木造阿彌陀如來立像一軀

神呪寺　同　甲東村　木造如意輪觀音坐像一軀、木造不動明王坐像一軀(不動堂安置)、木造弘法大師坐像一軀(大師堂安置)、木造聖觀音立像一軀(本堂安置)

無動寺　同　山田村　木造大日如來坐像一軀、木造釋迦如來坐像一軀、木造阿彌陀如來坐像一軀、木造不動明王坐像一軀

中山寺　川邊郡長尾村　木造十一面觀音立像一軀、木造藥師如來坐像一軀(藥師堂安置)、木造聖德太子坐像一軀(太子堂安置)、木造大日如來坐像一軀(地藏堂安置)

清澄寺　同　小濱村　絹本着色千手觀音像一幅、木造大日如來坐像一軀

小童寺　同　東谷村　絹本着色阿彌陀二十五菩薩來迎圖一幅

金心寺　有馬郡三田町　絹本着色十一面觀音像一幅、木造彌勒菩薩坐像一軀、木造不動明王立像一軀

淨橋寺　同　鹽瀨村　木造阿彌陀如來及兩端侍像三軀、銅鐘一口

清涼寺　同　有馬町　諸佛集會の繪ある黑漆厨子一基、木造波夷羅大將立像一軀

普福寺　同　同　木造聖德太子立像一軀

溫泉神社　同　同　絹本着色熊野曼荼羅圖一幅

明德寺　同　山口村　木造阿彌陀如來立像一軀

*高寶布神社　同　高平村　木造狛犬一軀

多聞寺　同　長尾村　木造毘沙門天立像一軀、木造吉祥天立像一軀、木造地藏菩薩立像一軀

觀音堂　同　中野村　木造如意輪觀音坐像一軀

護國院　同　藍村　木造持國天立像一軀、木造多聞天立像一軀

轉法輪寺　明石郡垂水町　木造阿彌陀如來坐像一軀

多聞寺　同　同　木造藥師如來坐像一軀、木造日光月光菩薩立像二軀

*太山寺　同　伊川谷村　絹本着色不動四童子像一幅、絹本着色兩界曼荼羅圖二幅、絹本着色釋迦三尊像一幅、絹本着色金剛經十六善神像一幅、絹本着色不動二童子像一幅、絹本着色法華曼荼羅圖一幅、絹本着色愛染曼荼羅圖一幅、絹本着色白衣觀音像一幅、絹本着色十六羅漢像十六幅、絹本着色兩界曼荼羅圖二幅、絹本着色十一面觀音像一幅、木造阿彌陀如來坐像一軀、

伽耶院　美囊郡　志染村
＊淨土寺　加東郡　小野町
＊一乘寺　加西郡　下里村
＊鶴林寺　加古郡　鳩里村
尾上神社　同　尾上村
十輪寺　同　高砂町
長樂寺　印南郡西志方村

（武器類（腹卷二・兜一・經鎧三・脛當一・前立一）、紙本墨書妙法蓮華經三十二卷、紙本墨書大塔宮令旨及注進狀四通）
木造毘沙門天立像一軀
（絹本着色眞言八祖像八幅、絹本着色佛涅槃圖一幅、木造阿彌陀如來立像一軀、木造阿彌陀如來兩脇士立像三軀、木造重源坐像一軀、銅製五輪塔）
（絹本着色聖德太子及高僧像十幅、絹本着色阿彌陀如來像一幅、絹本着色五大力吼像一幅、銅造聖觀音立像二軀）
（絹本着色聖德太子繪像八幅、絹本着色聖德太子像一幅、絹本着色彌陀三尊像一幅、絹本着色慈惠大師像一幅、木造釋迦三尊像三軀、銅像聖觀音立像一軀、木造鶴林寺扁額一面（傳鳥羽天皇宸翰）、木造十一面觀音像一軀、木造天蓋一個、銅鐘一口、木造髹漆厨子一基）
銅鐘一口
絹本着色五佛尊像一幅
木造地藏菩薩半跏像一軀

隨願寺　飾磨郡　水上村
圓教寺　同　曾左村
神積寺　神崎郡　田原村
岩屋寺　同　豐富村
斑鳩寺　揖保郡　斑鳩村
加茂神社　同　室津村
見性寺　同　同
大覺寺　同　網干町
最明寺　佐用郡三日月村
光久寺　宍粟郡　安師村
瑠璃寺　同　三河村

木造毘沙門天立像一軀
（木造釋迦如來及兩脇侍像三軀、木造四天王佛像一軀）
木造藥師如來坐像一軀
木造毘沙門天像
（紺紙金泥釋迦三尊十六羅漢像五幅、絹本着色聖德太子勝鬘經講讚圖一幅、木造釋迦如來坐像一軀、木造藥師如來坐像一軀、木造如意輪觀音坐像一軀、木造日光月光菩薩立像二軀、木造十二神將立像八軀）
神馬圖額二面（元信筆）
木造毘沙門天立像一軀
（絹本着色釋迦三尊像三幅、絹本着色十六羅漢像十六幅）
木造北條時賴坐像一軀
（絹本着色迦伐蹉尊者像一幅、注茶半託迦尊者像一幅、木造不動明王立像一軀）
絹本着色不動明王二童子像一幅

文常寺	城崎郡	三江村	木造聖觀音立像一軀
*温泉寺	同	城崎町	絹本着色十六善神像一幅、木造十一面觀音立像一軀、木造千手觀音立像一軀
帝釋寺	同	香住町	木造聖觀音立像一軀
大乘寺	同	同	紙本墨山水圖上段ノ間張付一切(三)及襖四枚(應擧筆)、紙本着色郭子儀圖襖八枚(應擧筆)、紙本墨畫孔雀圖襖十六枚(應擧筆)、木造聖觀音立像一軀、木造十一面觀音立像一軀、木造觀音立像一軀
東樂寺	同	中筋村	木造四天王立像四軀
出石神社	出石郡	神美村	脇指(但州作圖光外に梵字あり)
黒野神社	美方郡	村岡町	絹本着色釋迦十六善神像一幅
相應峯寺	同	浜坂町	木造十一面觀音立像一軀
乘實寺	氷上郡	柏原町	紫紙金泥法華經八卷、紺紙金泥大威德陀羅尼經一卷(卷十六)
常勝寺	同	久下村	銅造十一面千手觀音立像一軀、木部藥師如來坐像一軀
高源寺	同	神楽村	絹本着色普賢圖師像一幅

遠身寺	同	葛野村	木造阿彌陀如來坐像一軀、木造十一面觀音坐像一軀、木造藥師如來坐像一軀、木造(藥師如來坐像一・阿彌陀如來坐像一・聖觀音立像一・吉祥天立像一・十一面觀音立像三・地藏菩薩坐像一・兜跋毘沙門天立像一)九軀
藥師堂	同	久下村	木造藥師如來坐像一軀
八幡神社	多紀郡	日置村	木造(持國天像一・多聞天像一)二軀
西行寺	同	同	木造藥師如來坐像一軀、木造(持國天立像一・増長天立像一・多聞天立像一)三軀
櫛岩窓神社	同	大芊村	木造(櫛岩窓命坐像一・豊岩窓命坐像一)二軀、木造大宮比賣命坐像一軀
二村神社	同	古市村	木造伊邪那岐命坐像一軀
大國寺	同	味間村	木造(大日如來坐像二・阿彌陀如來坐像一・持國天立像一・増長天立像一)五軀
八幡神社	津名郡	洲本町	脇卷一領(附兜一・大神小手一・曲輪一)
國分寺	三原郡	八木村	木造釋迦如來坐像一軀
成和寺	同	同	木造藥師如來立像一軀
國清寺	同	賀集村	木造大日如來坐像一軀

8 公園

	所屬郡市町村大字	開設年月日	坪數
明石公園	明石市 大明石村	明治 三三・七・?	九〇、四九八
三熊公園	津名郡 洲本町 漁師町	三九・五・三一	七五、七五四
手柄山公園	飾磨郡 手柄村 西延末	大正 六・一・?	六六、二一三
童子山公園	多可郡 西脇町 西脇	明治 四三・五・二〇	二三、〇四〇
姫山公園	姫路市 本町	大正 一・八・一	二一、六七一
稻荷山遊園地	加東郡 瀧野町 上瀧野	二・五・一	二一、〇一八
丸山公園	有馬郡 有馬町 丸山	明治 三四・?・?	二〇、〇〇〇
大倉山公園	神戸市 楠町 七丁目	四四・四・?	一九、四一一
芦屋遊園	武庫郡 精道村 芦屋	四〇・五・三	一七、二九八
會下山遊園地	神戸市 兵庫港 地方會下山	四二・一・?	一三、五二五
東遊園地	同 加納町 六丁目	八・?・?	一二、一八五

湊川公園	同 松本通 一丁目 荒田町 一丁目	四四・一一・?	一〇、九二三
王地山公園	多紀郡 城北村 澤田	四二・五・七	七、一八二
日吉公園	城崎郡 豐岡町 字山王	四〇・一・?	七、〇七八
舞子公園	明石郡 垂水町 山田	三三・七・?	六、九〇一
生野公園	朝來郡 生野町 口銀谷眞弓	大正 二・一〇・三	六、七九〇
須磨寺遊園地	神戸市 西須磨	明治 四三・?・?	六、六八三
淺野公園	津名郡 淺野村 淺野	三二・一二・二二	六、一八一
東山公園	城崎郡 城崎町 湯島	四二・?・?	五、九一一
落葉山公園	有馬郡 有馬町	大正 八・八・?	五、〇〇〇
愛宕山公園	同 愛宕山	明治 三六・?・?	五、〇〇〇
明石遊園地	明石市 相生町	三六・一・?	四、八二六
三田公園	有馬郡 三田町	四一・二・一	四、〇七五
太子山遊園地	揖保郡 斑鳩村 鵤	大正 二・一・?	四、〇五〇
賀島公園	城崎郡 竹野村 竹野	明治 四五・四・一一	三、六〇〇

圓見公園	城崎郡香住町	一日市	大正二・八・八	三、〇〇圓		
亀山公園	同豊岡町本町	豊岡町本町	明治三十九・三	三、〇三〇		
鼓ヶ瀧遊園	有馬郡有馬町鼓山	往古	三八・二・二〇	三、〇〇〇		
宇都野公園	美方郡浦坂町濱坂	同	三八・二・二〇	二、三六一		
諏訪山遊園地	神戸市山本通四丁目	同	三六・六・?	二、三〇九		
海岸遊園地	同海岸通	同	八・?・?	一、八二四		
高砂公園	加古郡高砂町材木町	同	三四・八・二〇	一、六四五		
上ノ丸公園	美囊郡三木町	同	二九・二・?	一、六一九		
庄下遊園地	尼崎市別所村	同	大正一・九・四	一、一一八		
西山公園	城崎郡城崎町	同	明治四三・四・一	一〇六二		
城山公園	美方郡村岡町字村岡	同	大正四・?・?	七五〇		
宝津公園	揖保郡宝津村	同	二・二・七	六六四		
多可公園	多可郡中町下曾我野	同	明治三二・四・二〇	六〇〇		
假屋公園	津名郡假屋町假屋浦	同	四二・六・?	三〇〇		
御坂遊園地	美囊郡三木町	同	二九・二・?	二九		

9 温泉

（著名なるものを掲ぐ）

	所屬郡市町村大字	泉質	冷温別	摂氏温度	發見年	
實振本温泉	武庫郡瓦元村實振	食鹽重曹炭酸	冷	六〇	明治一七年	
同	川邊郡小濱村川面	炭酸亞兒加里性	冷	六三・〇	同 四二年	
有馬本温泉	有馬郡有馬町	同含鐵濃厚食鹽	温	一二七	神代さいふも不詳	
花ノ湯	同	鹽水	同	?	?	
眼洗湯	同	鹽化物泉	同	約一、〇〇〇	?	
鄙湯	同	木温泉に同じ但し微薄	同	一〇七・〇	?	
花ノ坊温泉	同	純炭酸	同	九〇・〇	?	
有馬炭酸泉	同	炭酸ラヂウム含有炭酸性水	同	三二・五	?	昨年より湧出せるも泉水に混ぜしが明治六年十月檢査有効水となる
丸山	同	炭酸性水	同	?	?	?
鳥地獄	同	炭酸性水	同	?	?	?
五社	同有馬町有馬					

武田尾	有馬郡鹽瀬村名鹽	單純	冷	七七・〇		?
湯ノ涌	同 同 生瀬	同	同	六四・〇		?
寅ケ淵	同 同	同	同	六四・〇		?
置鹽	飾磨郡置鹽村鹽田	含鹽	同	七・〇		?
湯島（鴻ノ湯）	城崎郡城崎町湯島	亞兒加里性鹽類	同	乃六七・〇 至一〇五・〇	人皇三十五代舒明天皇御宇	
清瀧	同 清瀧村十戸	炭酸	溫	六二・六	明治三七年六月	
奈佐	同 奈佐村辻	同	同	六〇・〇	明治四五年	
一ノ湯	同 城崎町湯島		?	同	―	寶曆年間以前
御所湯	同 同		?	同	―	文永四年後堀川天皇の皇后安嘉門院御入浴に初まる
柳湯	同 同		?	同	―	―
曼陀羅湯	同 同		?	同	―	養老年間僧道智上人の發見
地藏湯	同 同		?	同	―	―
新湯	同 同		?	同	―	大正二年八月
湯村	美方郡温泉町湯村	鹽類	泉熱	二二〇・〇		約一五〇〇年前

昭和六辛未年略曆

大

一日 たつ 一（木） 十一月十三日	一日 う 三（日） 正月十三日	一日 たつ 五（金） 三月十四日	一日 み 七（水） 五月十六日	一日 ね 八（土） 六月十八日	一日 うし 十（木） 八月二十日	一日 さら 十二（火） 十月廿二日
四方拜 一月一日	小寒 一月六日	彼岸 三月十八日 九日廿一日				
元始祭 一月三日	大寒 一月廿一日	庚申 一月五日 三月六日 五月五日 七月四日 九月二日 十一月一日				
新年宴會 一月五日	節分 二月四日					
紀元節 二月十一日	初午 二月八日					
春季皇靈祭 三月廿一日	八十八夜 五月三日					
神武天皇祭 四月三日						

神武天皇即位紀元二千五百九十一年

平年辛未三百六十五日 西曆紀元千九百三十一年

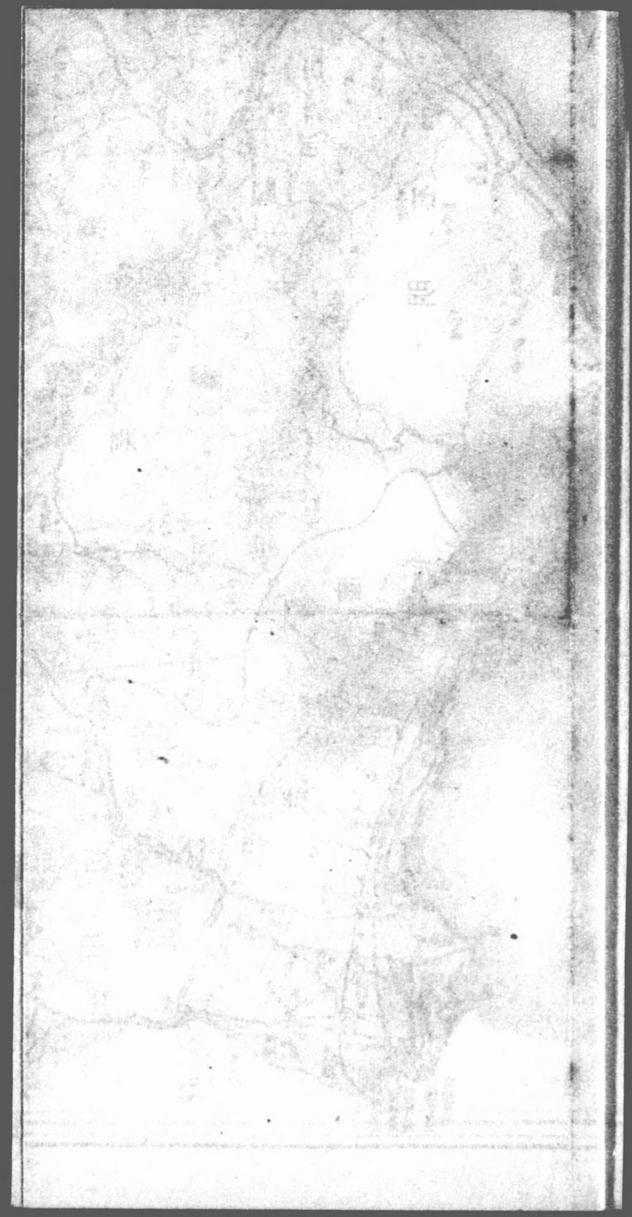
小

一日 ゐ 二（日） 十二月十四日	一日 いね 四（木） 二月十四日	一日 み 六（月） 四月十六日	一日 ひつじ 九（火） 七月十九日	一日 さる 十一（日） 九月廿二日		
天長節 四月廿九日	入梅 六月十二日	甲子 一月九日 三月十日 五月九日 七月八日 九月六日 十一月五日	社日 三月廿四日 九月二十日	土用 一月十七日 四月十八日 七月廿一日 十月廿一日		
秋季皇靈祭 九月廿四日	夏至 六月廿二日					
神嘗祭 十月十七日	半夏生 七月三日					
明治節 十一月三日	二百十日 九月二日					
新嘗祭 十一月廿三日	冬至 十二月廿二日					
大正天皇祭 十二月廿五日						

日曜表

立春 二月四日	一月 四、一一、一八、二五	―				
立夏 五月六日	二月 一、八、一五、二二	―				
立秋 八月八日	三月 一、八、一五、二二、二九					
立冬 十一月八日	四月 五、一二、一九、二六	―				
	五月 三、一〇、一七、二四、三一					
	六月 七、一四、二一、二八	―				
	七月 五、一二、一九、二六	―				
	八月 二、九、一六、二三、三〇					
	九月 六、一三、二〇、二七	―				
	十月 四、一一、一八、二五	―				
	十一月 一、八、一五、二二、二九					
	十二月 六、一三、二〇、二七	―				

陰曆元日	二月十七日
隨軍記念日	三月十日
海軍記念日	五月二十七日
仲秋名月	九月二十六日



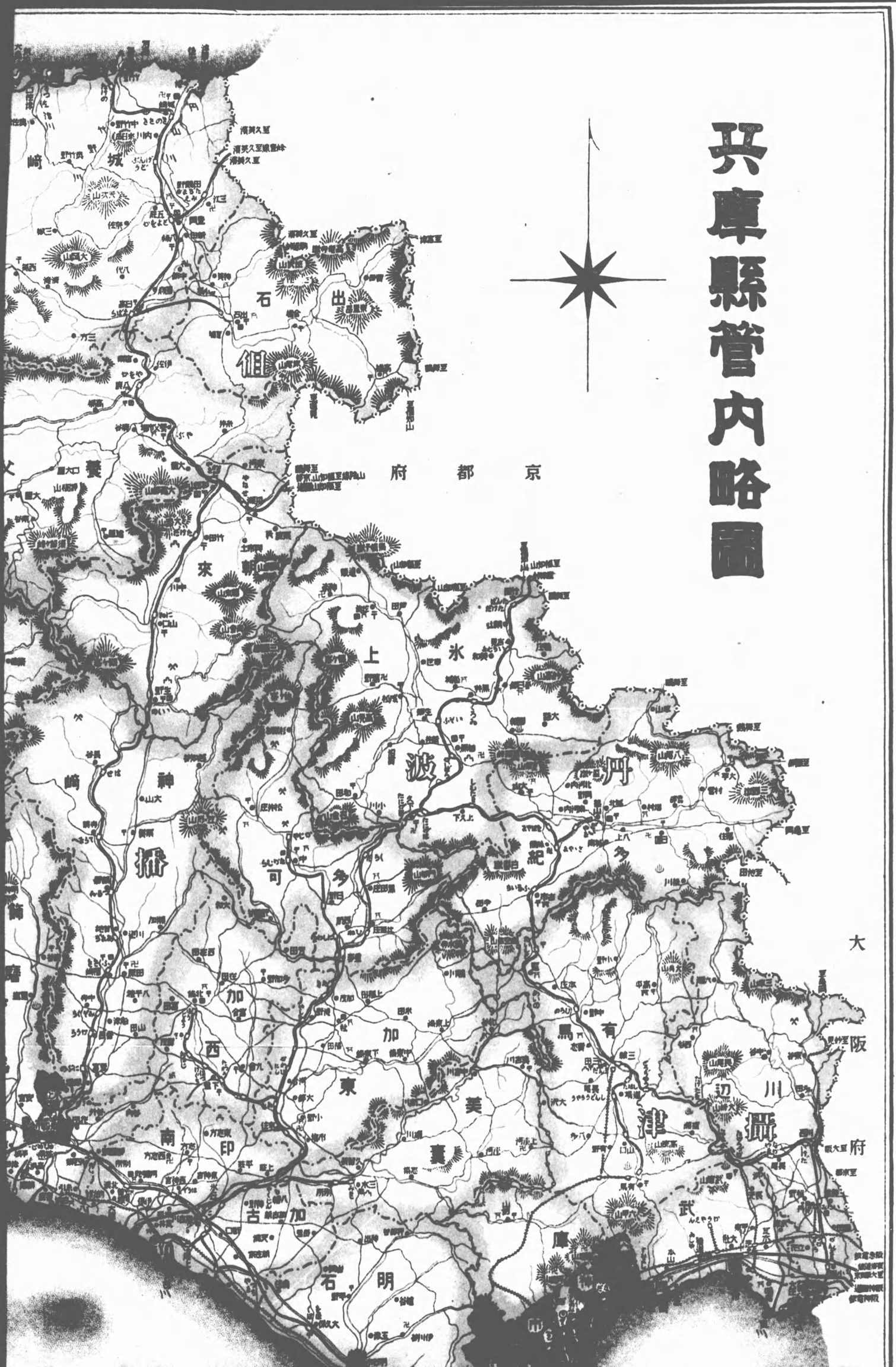
昭和六年三月十五日印刷
昭和六年三月二十日發行

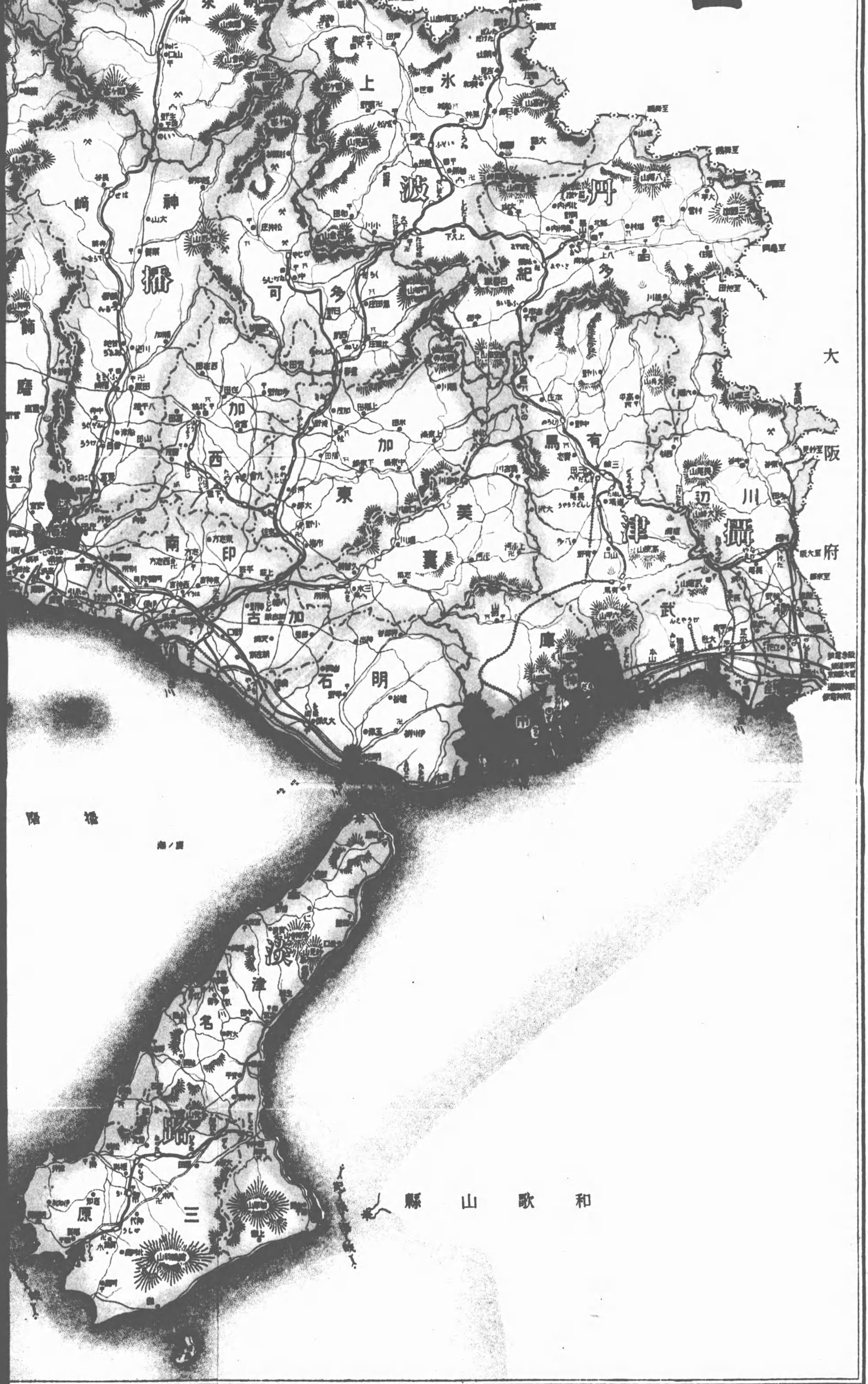
兵庫縣

印刷者　神戸市三宮町一丁目三百二十番屋敷
辻左武郎

印刷所　神戸市三宮町一丁目三百二十番屋敷
合資會社明輝社

兵庫縣管内略圖





大阪府
和歌山縣
播磨
丹波
加西
加東
美囊
加古
明石
有馬
川辺
武庫
淡津
名
三原

地理圖

凡例

◎	都府
○	縣廳
●	重要ナル市街（三萬以上）
●	其他ノ市街
⊙	開港場
⊕	鎮臺
⊕	分營
⊕	鎮守府
⊕	要塞
⊕	砲臺
⊕	燈臺
⊕	燈船
⊕	無線電信局
⊕	有線電信局
⊕	有線電話局
⊕	海底電線陸揚局
⊕	海底電線中繼局
⊕	海底電線敷設船
⊕	海底電線修理船
⊕	海底電線標
⊕	海底電線標識
⊕	海底電線禁錨區域
⊕	海底電線禁漁區域
⊕	海底電線禁錨區域標識
⊕	海底電線禁漁區域標識
⊕	海底電線禁錨區域標識船
⊕	海底電線禁漁區域標識船
⊕	海底電線禁錨區域標識浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈
⊕	海底電線禁漁區域標識燈
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁漁區域標識燈船浮標
⊕	海底電線禁錨區域標識燈浮標船浮標
⊕	海底電線禁漁區

昭和十七年版

兵庫縣勢要覽

昭和七年三月刊行

兵庫縣勢要覽

兵庫縣勢要覽目次

一 位置廣表……一
一 地勢……一
山嶽……二
河川……二
港灣……二
高原……三
平野……三
瀑布……三
一 地質……三
一 土地……四
一 氣象……五
一 戶口……六
現在人口、現住人口及戶數……六
在留外國人及人口動態……一〇
一 沿革……一一
一 行政區劃……一三

一 農業……一四
農產物價額……一五
農家戶數……一六
米……一七
麥……一七
各種農產物……一八
果實……二一
製茶……二二
苗木……二二
桑畑……二二
蠶種製造及掃立枚數……二二
養蠶戶數……二二
繭……二二
製絲場數……二三
生絲及眞綿……二四
一 畜產……二四

家畜……二四
屠殺……二六
家禽……二七
畜產物總價額……二八
一 林業……二八
林野面積……二九
公私有林野天然造林……二九
公私有林野人工造林……二九
公私有林野伐採……三〇
林野產物價額……三〇
一 鑛業……三一
鑛產物……三一
石材、土石及鑛水價額……三一
一 水產……三三
水產物價額……三三
水產業者……三五
漁船……三五
水產養殖……三五
一 工業……三六
工場……三六
工產物價額……三八
主要工產物……三九
一 商業……四三
外國貿易……四三
會社……四四
取引所……四六
銀行……四六
產業組合……四七
質屋……四九
手形交換……四九
貯蓄……四九
同業組合、準則組合、酒造組合……五〇
度量衡……五〇
一 交通土木……五三
道路橋梁……五三
船舶……五四

諸車……五五
鐵道……五五
軌道……五七
無軌道電車……五八
港灣……五九
航路標識……五九
入港船舶……六〇
上水道……六一
瓦斯及電燈……六二
一 教育……六二
初等教育……六二
中等教育……六三
師範教育……六四
專門教育及大學……六五
專門學校及大學……六五
實業教育……六六
特殊教育……六七
諸學校、幼稚園及圖書館概要……六八
公學費……六九
公學資產……七〇
一 社會教育……七一
社寺及教會……七二
一 神社……七二
寺院……七三
諸教會……七四
國寶建造物及國寶……七六
一 社會事業……七七
罹災救助……七七
窮民救助……七八
行旅病人……七九
恩賜賑恤……八〇
軍事救護……八〇
醫療保護……八〇
住宅組合……八〇
移殖民保護奬勵……八一
兵庫縣濟和會……八一

位置廣袤

兵庫縣は楯西佐用郡西庄村西大島の西端東經百三十四度十七分に起り、楯東川邊郡東谷村黒川東經百三十五度二十八分に至り、楯南三原郡灘村潮崎の南端北緯三十四度十二分に始まり、楯北城崎郡餘部村の北端北緯三十五度四十分に終つて居る。

東は大阪府に、西は鳥取、岡山の兩縣に、東北は京都府に接し、南方一帶は瀬戸内海に臨み、北は日本海に面し、東西三十二里、南北五十里、面積五百三十九方里餘を包有し、五市、六十九町、三百四十六村を管轄して居る。

面積は全國道府縣中第十二位であるが管轄市町村の多いことは廣島縣に亞ぎ第二位である。

地勢

淡路の一國は別に島嶼を形成して居るが其の他は中國山脈に横斷せられて地勢は概ね中央に高く南北に低く、北部丹波但馬は概る山巒に富み、南半の攝津、播磨は概して平坦で田畑が多く武庫川、加古川、市川、揖保川、千種川等の諸川がその間を貫流して居る。

感化事業……八一
其の他……八二
一 財政……八四
縣財政……八四
市財政……九二
町村財政……九三
水利組合及水害豫防組合……九五
財産……九五
一 租稅負擔……九七
國稅……九七
縣稅……九八
市稅……九九
町村稅……一〇〇
現住一戸及一人當負擔額……一〇一
一 議會……一〇一
一 官公吏……一〇三
一 文書……一〇四
一 警察……一〇五
警察署……一〇五
警察職員……一〇六
消防……一〇六
警察費豫算……一〇七
火災……一〇八
棄兒……一〇八
變死者……一〇九
海外旅券下附人員……一一〇
興行……一一〇
宿屋止宿者……一一一
藝娼妓……一一一
行政執行……一一二
遺失物……一一二
盜難……一一二
一 衞生……一一三
病院及傳染病院……一一三
醫師其の他……一一三
傳染病……一一五
種痘……一一六
學校生徒トラホーム患者……一一七
衞生諸費……一一七

海岸線の延長は百餘里に達し、日本海は風濤怒激岬礁錯出して真港に乏しいが内海は波浪靜穩で真港が多い。

今管内に於ける山嶽、河川、港灣、高原、平野、湧布の内で主なるものを揚ぐれば左の通りである。

山　嶽　氷ノ山（美方郡熊次村）　西光寺山（多可郡比延庄村）
（海拔千三百米以上）　三室山（宍粟郡奥谷村）　扇ノ山（美方郡入田村）
音水峨山（宍粟郡奥谷村）

河　川　武庫川（武庫那鳴尾村、大庄村）　揖保川（揖保郡網干町）
（本流十五里以上）　千種川（赤穗郡赤穗町、尾崎村、新濱村）　加古川（加古郡高砂町、尾上村）
市　川（飾磨郡飾磨町、妻鹿町）　圖山川（城崎郡港村）

港　灣　神戸港（神戸市）　尼崎港（尼崎市）
明石港（明石市）　高砂港（加古郡高砂町）
飾磨港（飾磨郡飾磨町）　相生港（赤穗郡相生町）
津居山港（城崎郡港村）　洲本港（津名郡洲本町）
諏真港（三原郡諏真町）

高　原　上野ヶ原（有馬郡三輪町）　横山原野（美囊郡細川村）
（百町歩以上）　横谷原野（明石郡櫨谷村）　天滝野（夢父郡西谷村）
高龍野（宍粟郡奥谷村）

平　野　大洞原野（有馬郡貴志村）　奥山原野（美囊郡中吉川村）
（百町歩以上）

湧　布　太田湧布（神崎郡寺前村）　天　滝（夢父郡西谷村）
（著名なるもの）　市　瀧（美方郡熊次村）　猿　尾　瀧（美方郡兎塚村）
布引雄瀧（神戸市）　布引雄瀧（神戸市）
鷲ヶ瀧（美方郡入田村）　七種瀑布（神崎郡諏崎町）

地　質

六甲山から淡路の北半は花崗岩が發達し、播津、播磨の中央部から但馬の南部には安山岩及石英粗面岩等が分布して居る。水成岩の大古層は淡路國沼島に現られ、秩父古生層は丹波、播磨の中央部及南但に、中生層は淡路の南部及丹波篠山附近に介在し、播磨の東部には第三紀層の大區域がある。

土性は概して瘠土を雑へ、地味は肯綮ではないが五穀は能く豊熟する。

土地

本縣の昭和五年末現在に於ける土地總段別は六十一萬一千九百餘町歩で種類別に之を示せば左の通りである。

	（段別）	（町段）	（百分比）
御料地	二四五・九		・〇四
國有地	二六、七二四・七		四・三七
縣有地	二五七・九		・〇四
民有地	五八四、七〇六・四		九五・五五
計	六一一、九六一・九		一〇〇・〇〇

尚民有地の内譯を掲ぐれば、有租地五十五萬八百七十四町九段（九割四分）、免租地二萬九千八町六段（五分）、年期地四千八百五十町六段（一分）で、更に有租地につき其の地目別に之を示せば左の通りである。

	（段別）	（百分比）
田	一一一、二七二・〇	二〇・一六
畑	二六、一三一・一	四・七四
宅地	一三、八八一・〇	二・五二
山林	三八七、五一五・三	七〇・三五
原野	一〇、六四四・〇	一・九三
其の他	一、四二五・七	〇・二五
計	五五〇、八七四・九	一〇〇・〇〇

其の他には鹽田七百四十九町八段、池沼百九十町一段、雑種地四百八十五町八段を含む。

氣象

但馬、丹波、北播地方は積雪冷で雨雪多く、但馬地方にては積雪數尺に達する地方もあり、平均温度攝氏十五度、平均降雨量千七百粍乃至二千粍に達して居るが南部は概して温暖で北部に比し温度は平均一度餘高いが降雨量は却って少く千三百粍前後である。

管内に測候所三、観測所四十四あり、今昭和五年の現象の大要を示せば左表の通りであ

る。

	平均温度	最高温度	最低温度	降水日数	結霜 初	結霜 終	降雪 初	降雪 終
	度	度	度	日	月日	月日	月日	月日
神戸市	一六・二	三六・二	(一)二・六	一二四	一一・二三	三・二三	一・九	三・二一
豊岡町	一四・三	三五・七	(一)六・七	二一四	一二・七	四・一	一一・二三	三・二一
洲本町	一五・九	三五・六	(一)一・二	一四三	一二・七	三・二三	一・六	二・一三

戸口

現在人口　本縣に於ける國勢調査の結果は左表の通りである。

（十月一日現在）

	世帶數	人口 總數	人口 男	人口 女	女百に付男
大正九年	四九二、三二七	二、三〇一、七九九	一、一七五、四三六	一、一二六、三六三	一〇四・四
大正十四年	五三一、〇七三	二、四五四、六七九	一、二三九、三三六	一、二一五、三四三	一〇三・〇
昭和五年	五六二、三五九	二、六四六、〇三〇	一、三三三、八三一	一、三一二、一九九	一〇一・五

現住人口　縣下の現住人口と現住戸數とに就き、過去二十年間を列記して增加の狀態を示し、尙郡市別に表記すれば次の通りである。

（十二月末日現在）

年次	現住人口 總數	現住人口 男	現住人口 女	現住戸數	一戸に付現住人口
明治四十四年（二十年前）	二、〇三二、九三七	九九八、九三〇	一、〇三四、〇〇七	四〇一、七三〇	平・一一
大正元年	二、〇八七、七二三	一、〇二〇、〇三九	一、〇六七、六八三	四〇八、三六三	平・一一
同二年	二、一四四、三五一	一、〇四〇、一三七	一、一〇四、二一四	四〇六、四一八	平・二五
同三年	二、一六三、一八四	一、〇五二、九四六	一、一一〇、二三八	四一〇、二一〇	平・二七
同四年	二、二一四、九三三	一、〇七八、九九八	一、一三五、九三四	四一七、三四三	平・三〇
同五年	二、二六六、〇二六	一、一〇三、七二五	一、一六二、三一一	四二六、六九八	平・三一
同六年	二、二九九、七二七	一、一三三、三一〇	一、一六六、四一七	四三六、八二六	平・二六
同七年	二、三二一、三〇八	一、一四〇、三〇三	一、一八一、〇〇五	四三七、〇一五	平・〇六
同八年	二、三九九、六九八	一、一六四、九二三	一、二三四、七七五	四六七、七六七	平・一一
同九年（十年前）	二、四三四、〇〇六	一、一八〇、三一四	一、二五三、六九二	四八〇、〇四四	平・〇四
同十年	二、四七三、一五七	一、二〇二、九〇一	一、二七〇、二五六	四八九、〇九六	平・〇六

郡市	現住人口 総数	現住人口 男	現住人口 女	現住戸数	一戸に付現住人口
大正十一年	二、三五九、三五五	一、二九九、八八〇	一、三〇〇、八三〇	三五〇、〇五五	五、〇五
同十二年	二、三七九、一五六	一、三四四、三四〇	一、三四四、八一六	三五一、三五〇三	五、〇八
同十三年	二、六五六、八一七	一、三五四、三〇一	一、三〇二、五一六	三五三、三八三	五、〇八
同十四年	二、三五一、四二〇	一、二七六、七〇二	一、二七四、七一八	三五七、六九四	四、九五
昭和元年	二、三五三、八七九	一、三〇三、三五六	一、二五〇、三一三	三五一七、七四五	四、九五
同二年	二、六二三、三四六	一、三三二、三五一	一、二九〇、八三〇	三五二九、三一八	四、九六
同三年	二、六七六、六九三	一、三五九、八一九	一、三二六、八七四	三五四〇、三七八	四、九五
同四年	二、七一六、八八一	一、三五〇、一八〇	一、三六六、七〇一	三五〇、六三一	四、九四
同五年	二、七一八、〇八六	一、三七四、六六九	一、三四三、四一七	三五四六、六二六	四、九七

（昭和五年十二月末日現在）

郡市	現住人口 総数	現住人口 男	現住人口 女	現住戸数	一戸に付現住人口
神戸市	七九五、三八〇	四〇九、七三三	三八五、六四七	一八〇、一九九	四、四一
姫路市	六二、一八六	三〇、〇八〇	三一、一〇六	一三、二〇一	四、七一
尼崎市	五〇、四八二	二五、九〇八	二四、五七四	一〇、六五八	四、七四

郡市	現住人口 総数	現住人口 男	現住人口 女	現住戸数	一戸に付現住人口
明石市	四四、三六六	二一、九九七	二二、三六九	八、四七九	五、一九
西宮市	四三、一六九	二一、三三五	二一、八三四	八、四二一	五、一四
武庫郡	一六五、七六三	八二、九三八	八二、八二五	三四、七八一	四、七七
川邊郡	一一〇、二五四	五八、七二七	五一、五三七	二三、四四九	五、一三
有馬郡	四五、一四六	二二、六三二	二二、五一四	八、一二二	五、五七
明石郡	六四、一四六	三二、一四六	三一、一四〇	一一、七四三	五、四六
美嚢郡	四二、八四三	二二、二一五	二〇、六二七	七、六三五	五、六三
加東郡	五五、三一三	二七、九七七	二七、三三六	九、四四〇	七、一三
多可郡	四四、二八一	二二、一一九	二二、一六二	八、一三〇	五、四五
加西郡	四三、四七〇	二二、〇〇五	二一、四六五	八、〇九四	五、三七
加古郡	八六、五九七	四二、九四五	四三、六五二	一六、四五八	五、二六
印南郡	六〇、二四四	三〇、三四四	二九、九五四	一〇、七九九	五、八〇
飾磨郡	一一二、七四六	五五、六一一	五七、一三五	二〇、一七八	五、五九
神崎郡	六二、〇〇七	三一、一七一	三〇、二九二	一〇、八二一	五、七三
揖保郡	八八、七六四	四四、四五二	四四、三一二	一七、八五一	四、九七

赤穂郡	六五、四〇七	三二、九七八	三二、四二九	一二、八二三	五・一〇
佐用郡	三〇、五一五	一五、五八一	一四、九三四	五、六二九	五・四二
宍粟郡	六〇、六二四	三一、一八三	二九、四四一	一〇、九五四	五・五三
城崎郡	八三、四一二	四一、五九六	四一、八一六	一五、五四一	五・三七
出石郡	二五、五〇〇	一二、八一一	一二、六八九	四、八七二	五・二三
養父郡	五一、二九七	二五、八〇四	二五、四九三	九、五六〇	五・三七
朝來郡	三五、二一八	一七、八四八	一七、三七〇	七、〇三〇	五・〇一
美方郡	四八、三五一	二四、三七六	二三、九七五	八、九七一	五・三九
氷上郡	七六、四一五	三八、七一四	三七、七〇一	一五、一九八	五・〇三
多紀郡	五一、七四六	二五、八七一	二五、八七五	九、七七〇	五・三〇
津名郡	一二八、九〇一	六四、八八七	六四、〇一四	二五、〇六七	五・一四
三原郡	七三、四九〇	三七、六一一	三五、八七九	一二、九六二	五・六七
計	二、七一八、〇八六	一、三七四、六六九	一、三四三、四一七	五四六、六二六	四・九七

在留外國人　昭和五年十二月末日現在の本縣在留外國人總數は九千七百九十一人其の内支那六千七百八十人、英吉利七百六十八人、露西亞四百九十六人、米國三百八十三人、獨逸三百四十四人、印度二百五十三人、瑞西百十九人、葡萄牙百十三人、佛蘭西百七人、和蘭六十人、瑞西四十四人、加奈陀四十二人、其の他二百八十二人である。

人口動態　昭和五年の人口動態は左の通りである。

（昭和五年）

		人口千に付
結婚	一九、三六八	七・三二
離婚	一、八〇二	〇・六八
出生	七七、五〇六	二九・二九
死亡	四六、三三七	一七・五一
死産	四、九一六	一・八六
死亡に對し出生の増	三一、一六九	一一・七八

沿革

明治四年十一月兵庫縣を置き神田孝平氏が大參事として就任せられてから六十年になるが、其の間に於ける變遷及歷代長官の氏名を掲げると左の通りである。

兵庫縣（明治九年八月二十一日）

豐岡縣（明治四年十一月二日）
- 但馬國一圓
- 丹波國の內多紀、氷上、天田の三郡（天田郡は明治九、八、二京都府へ）

飾磨縣（明治四年十一月九日）
- 播磨國一圓（明治四、一、八迄は姫路縣と稱せり）

名東縣（明治四年十二月十五日）
- 阿波國一圓
- 淡路國一圓（明治九、八、三高知縣へ）

兵庫縣（明治四年十二月二十日）
- 攝津國八部及菟原、武庫、川邊、有馬の四郡
- 播磨國一圓

歷代の長官

任官年月	氏名	任官年月	氏名
明治元・五	任官 伊藤俊介（博文）	明治三三・一〇	任官 服部一三
同二・四	〃 久我維慶	大正五・四	〃 清野長太郎

同二・五	〃 中島錫胤	同八・四	〃 有吉忠一
同二・六	〃 陸奥陽之助（宗光）	同一一・六	〃 折原巳一郎
同二・八	〃 稅所長藏（篤）	同一二・一〇	〃 平塚廣義
同三・一〇	〃 中山信彬	同一四・九	〃 山縣治郎
同四・一一	〃 神田孝平	昭和二・五	〃 長延連
同九・九	〃 森岡昌純	同四・七	〃 高橋守雄
同一八・四	〃 內海忠勝	同六・一	〃 岡正雄
同二二・一二	〃 林 董	同六・八	〃 小柳牧衛
同二四・六	〃 周布公平	同六・一二	〃 白根竹介
同三〇・四	〃 大森鍾一		

行政區劃

本縣の市は神戶、姫路、尼崎、明石、西宮の五市で、郡は武庫、川邊、有馬（以上攝津國）、明石、美嚢、加東、多可、加西、加古、印南、飾磨、神崎、揖保、赤穗、佐用、宍粟（以上播磨國）、城崎、出石、養父、朝來、美方（以上但馬國）、氷上、多紀（以上丹波國）、

津名、三原(以上淡路國)の二十五郡、町六十九、村三百四十六、この總面積五百三十九方里餘である。

農業

昭和五年末現在に於ける本縣の耕地總段別は十三萬二千九十三町三段で內田十一萬百六十二町三段步、畑二萬一千九百三十一町步である。之を農家戶數十八萬五千八百八十六戶に對比すると、一戶當り田に於て約六段步、畑に於て約一段步に相當するのである。

農產物總價額は、八千九百六拾參萬餘圓で內米價は四千四百五拾九萬餘圓で各種農產物中其の首位を占め、之に亞ぐものは蠶絲類の壹千四百參拾九萬餘圓、麥の壹千九萬參千餘圓である。

土性は概ね壤土質で地味肥沃、氣候溫和、各種の植物能く繁茂し一般農作物の生育頗る良好で實に農業上天惠の好適地で、五穀は豐饒殊に米は其の產額二百五十萬石に達し品質の良好なる事播州米又は淡路米として其の聲價高く、北丹波、但馬地方は比較的平野に乏しいが桑、杞柳、果樹等の植栽に適し殊に養蠶は古來より盛んで近時著しき發達の域に達して居る。

本縣は明治二十七年に初めて明石市に農事試驗場を設置して試驗研究を行ひ、同四十一年穀物檢査所を設けて產米麥の改良を促し、又自作農創成により農業經營の安固及農村發達の堅實を期し、小作爭議の調停に努め、其の他農業倉庫の設置奬勵、養蠶業及桑園の改良、耕地整理の遂行、品種の改良、副業の奬勵等連年此等事業の助長奬勵を怠らず將來益々完全なる發達と農村の福利を期しつゝある。

本縣の農家戶數竝に各種農產物につき表示すれば左の通りで昭和五年の生產價額は農家一戶に付四百八拾貳圓、現在一戶に付百六拾四圓となる。

		總價額	米	麥	食用農產物	果實蔬菜
農價產物額	昭和三年	一三二、三一二、七〇八円	七〇、〇四九、一一八円	一四、一三〇、七五〇円	二、七三六、九六九円	八、六八一、一九六円
	同四年	一三〇、九八〇、七二五	六五、七三八、四一九	一四、〇〇二、一一九	二、六二七、四〇四	八、九九三、七九六
	同五年	八九、六三一、八五六	四四、五八九、九七四	一〇、〇九三、七七八	一九五、五四八	七、六三三、〇五四

		工藝農產物	綠肥用作物	苗木及觀賞植物	製茶	繭
農價產物額	昭和三年	一、八〇三、三八三円	五四三、一八二円	四五二、八三〇円	二七五、八四〇円	一〇、二六八、七〇九円
	同四年	一、七八五、六六六	五四五、二七五	四六一、二三二	二九四、五九九	一二、四三三、二四八
	同五年	一、七六八、九〇七	四四九、八六一	四九六、八四八	二一八、三三二	六、七七五、五七一

		農産物額	農家一戸に付	現住一戸に付
農産物額	昭和三年	四六八、六二三円	七二円	二四五円
同	四年	四七三、九六八	七〇三	二三八
同	五年	三三七、七九四	四八二	一六四

其の他には蠶繭、蔬菜及養蜂を含む。

		戸数	自作小作別		專業兼業別	
			自作	小作 自作兼小作	專業	兼業
農戸家数	昭和三年	一八五、八六〇	四九、〇四一	七七、五四一	二二五、七九九	七〇、一〇一
同	四年	一八六、四六八	四九、二五六	七九、一四八	二一七、七三四	六八、七三四
同	五年	一八五、八八六	四九、四七六	八〇、二九	二一八、六八二	六七、二〇四

		耕作地廣狹別			
		五畝未満	五畝以上一町以上	二町以上三町以上	五町以上
農戸家数	昭和三年	八〇、四三三	七八、一八〇	二五、一五九	一、七六五	二六三	七三
同	四年	八〇、三三五	七九、一八七	二五、六二八	一、九三三	三〇六	六〇
同	五年	七九、四七七	七八、三二六	二五、九八〇	一、七二〇	二八六	七七

		米（昭和五年）	麥（昭和五年）	雜穀	蔬菜	工藝作物	其の他
作付段別	町段	水稻	大麥	大豆	甘藷	煙草	蠶繭
	九七、四九九	陸稻	小麥	小豆	大根	甜瓜	
	七〇五、八七	糯米	裸麥		里芋		
		陸稻米					
		糯米					
作付段別	町段						
	二一七						
	五三八						
作付段別	町段						
	四、九二七、七						
	二六、四六七、五						
	三三、九七五、〇						
作付段別	町段						
	一、〇三一、八						
	一、〇〇九、〇						
	三、一三〇、一						
	一、九六四、六						
	七三三九						
收穫高	石						
	二、三三三、八四九						
	一五九、二六三						
	二一七						
	五三八						
收穫高	石						
	四、九二七、七						
	二六、四六七、五						
	三四八、一一〇						
收穫高	石						
	七九、〇八七						
	四三、二六八						
	三四八、一一〇						
收穫高	石						
	四九九、四九五						
	七、四八八、七九九						
	二一、七四四、一八六						
	四、九四七、六九九						
	二、八二九、四九八						
價額	一段歩收穫高						
	二、三四二、八四九円						
	一五九、二六三						
	二一七						
	五三八						
價額	一段歩收穫高						
	四、九二七、七						
	二六、四六七、五						
	三三、九七五、〇						
價額	一段歩收穫高						
	七九、〇八七						
	四三、二六八						
	三四八、一一〇						
價額	一段歩收穫高						
	四九九、四九五						
	七、四八八、七九九						
	二一、七四四、一八六						
	四、九四七、六九九						
	二、八二九、四九八						

各種農産物

作付段別	収穫高	価額	一段歩収穫高
町段	貫	円	貫
茄子	一、四五六、七	四九九、一七九	三五四
馬鈴薯	二、五九二、〇	四七七、九一〇	二六六
大豆	二、三〇四、三	四七二、七一九	一、二四五 石
苺	三一八、〇	五四五、六八三	一、一六九 貫
濱菜	六八七、六	三〇九、三四四	二一一
葱	三、三八、五	二三九、八九八	四四三
胡瓜	二七五、三	二三五、九七九	四五三
葱頭	四一〇、〇	二一三、二一一	四九二
佛掌薯	二、三九、二	二〇九、一八一	三九九
蕪菁	一、一四一、一	二〇一、七五四	二三三 石
小豆	二、三三、五	一六、一二四六	一、八四九 貫
南瓜	一、二九、九	一五〇、八六五	三九八
胡麻	一七二、七	二三、二一六	四〇一
牛蒡	一、一四二、一	一一四、五九九	二六一

農産物

作付段別	収穫高	価額	一段歩収穫高
町段	貫	円	貫
蕗薹	三九二、〇	一〇、八八三	一、〇〇〇
菠薐草	一四八、四	一〇、七二七	二六六
越瓜	一四六、三	一〇五、六五八	四七六
薩摩芋	一三〇、一	九二、七三〇	二五九
蕪菁	三〇九、七	九一、八六五	二四七
豌豆	三八五、二	九〇、四三三	一、二〇九 石
茄子	六四、一	八八、六三〇	六六八 貫
甜瓜	八七、三	七七、九一四	三九九
柳瓜	一六二、二	七三、二八八	一九八
枇杷	一〇五、二	五九、九九八	五六〇
甘藍	四四、三	一五九、八九〇	三五四
生薑	三一、八	一四二、七九八	三一一
蓮根	四三、八	一四一、六四二	一、〇二一 石
蕃椒	四五、八	三九、一〇五	一、九〇一 貫
千瓢	—	三八、六〇五	六六、八七四

作付段別 町段 一八八

（昭和五年）

	食用百合	蘭	菜豆	菜種	大麻	三椏	苴麻	三分	藷	三葉	蘘荷	切干大根	胡麻	黍
作付段別 町段	一八八	二五〇	七二七	三三四七	七五二	一八二八	一〇八六	三〇一	二九五	二三六	—	六一一	七四九	
收穫高 貫	一三八	二七	一一七四	三元	〇七九一	二五	〇七九五	三二	一九四	一九九	—	〇六四二	一一一	
價額 一段歩收穫高 円	三二、六六七	二九、四三三	二八、四三三	二五、九〇一	二三、七六八	二一、九三三	五〇、四三一	九、七一四	一八、〇三三	一五、六一三	一三、六九六	二、六一七	八、七六九	

（昭和五年）

	果實	柿	枇杷	葡萄	桃	夏橙	梅	蜜柑	梨	無花果	千柿	ネーブルオレンヂ	李
樹數		四八〇、一三〇 本	一三九、六四二	一五一、二〇七	一三五、一一〇	一〇三、〇四四	一一〇、四八一	一〇七、五七一	七四、四六〇	四七、八〇五	—	一〇、三六二	九、六六八
收穫高		一、四七五、五八〇 貫	五一七、〇五一	三一五、四四〇	三四七、四〇五	四六四、〇八〇	四、七一五 石	二四二、五〇五 貫	一六二、三五五	四、七一五 石	三九二	二七、一五一	五四、九九 石
價額		三二、三二三 円	一二、六六三	一〇九、九三一	九三、一四三	八七、八一七	六八、七五五	五八、三九	四、二九七	一三、三一〇	七、六九一		

製茶（昭和五年）

茶畑製茶戸数 一四三、七〇四戸

産額 総数 一〇三貫 玉露 六六、五四八貫 煎茶 七五、六六六貫 其の他 一、三八貫 価額 二八、三三円

果実苗木（昭和五年）

生産戸数 二五四戸 数量 六〇七、九一三本 価額 四一、六四六円

桑苗（昭和五年）

生産戸数 二、七九八戸 数量 四、三九〇、一二七本 価額 一三一、四六四円

畑桑（昭和五年）

総数 一、〇九六、五町歩 内訳 其の他 四、六八四、五町歩

刈中刈高刈立通 本畑 三一〇、六町歩 其の他 三六四、〇町歩

刈取回数 五、七三七、四回 九、八〇〇、八 六七二、三 六七三、四

蚕種製造

蚕種製造及掃立枚数（昭和五年）

製造者数 蛾数 二三 二七九、七〇八 価額 四二九、五六二

蚕種掃立枚数 総数 二三二、二〇九 春蚕 夏秋蚕 枚 一三三、七九 八八、四二〇

養蚕戸数（昭和五年）

戸数 春蚕 四二、六七六戸 夏秋蚕 三八、一八五戸 実戸数 四五、一〇三戸

現住百戸に付 実戸数 八戸 実戸数一に付 収繭量 一五〇、三貫 価額 一五〇、三円

収繭

総数 一、二三六、六〇六貫 上繭 一、二三五、九〇二貫 玉繭 三〇、八二貫 屑繭 三、八八〇貫

繭一貫に付価額 価額 五九六、五二六 五、八三四、八九七円

高 春蚕 五九六、五二六 夏秋蚕 五一八、〇二〇 五三、六三四 二四八、四三一

一、二九一、五八四 二一、七

製糸場数（昭和五年）

繰糸 挽繰糸 三三 五 一〇 五〇 職工数 六、六六八

座繰糸 五〇二 二 一 五〇五 八九七 九一〇

玉糸 五 一 一 六 六五 五三

繰糸釜数 十釜未満 三三 五 二 一〇 五〇 四四三

十釜未満五十釜未満 五 二 一 五〇五 八九七

百釜未満 百釜以上 総数 五 一 一 六 六五 五三

生絲及眞綿（昭和五年）	生絲			生絲			熨斗絲			生皮苧		
	總價額	數量	價額	數量	價額		數量	價額		數量	價額	
	一四、三九〇、八七四円	二六六、一七一貫	一四、〇九〇、五八四円	二、八八二貫	一三、一八七円		三一、六二〇貫	二一八、四〇七円				
	其の他			眞綿								
	數量	價額		製造戸數	數量	價額						
	三一、六一四貫	六八、六九六円		五四戸	三八九貫	七、九五五円						

畜産

本縣は管轄地域廣濶で其の中央部を連亘せる中國山脈のある爲地形は自ら海に向つて丘陵的山野を展開して居る結果、家畜の放牧にも家禽の養殖にも到る處天與の好適地が多い、從つて專業に或は副業に畜産の振興は地の利を得て益々發達し將來愈々有望である。

家畜 家畜の主なるものは牛で馬及豚之に亞ぎ、縣は明治三十五年以來年々優良なる種牡牛を購入し、大正十二年度より畜産組合に對し優良種牡牛購入費補助の法をとりて畜牛改良に努めると共に又馬匹に對しても同樣改良增殖を奬勵して居る。乳牛に對しても明治四十一年始めて産業組合法に依る組合を設け今や其の數六十有餘に達し、近來の發展著

しく昭和三年牛乳共同處理設備補助規程を設くる等體格の改善と乳量の增加とに努め、其の他縣有種牡牛の貸付、優良牛馬の保留、牛馬賣買法の改善、品評會及共進會の開催、畜産技術員の設置、實業視察員の派遣、講習講話會の開催等により益々斯業の改善發達に資せんとして居るのである。養豚業は氣候、風土共に斯業の好適地であり、且つ京阪兩大消費地を控へ尙滋養食品推奬の今日毎年生産增加の傾向を辿つて居るが、緬羊及山羊の飼養は振はず、蜜蜂も亦近年減少の趨勢にある。

本縣に於ける家畜中牛は官有のものを除き九萬八千九百八頭で家畜總數の八割六分を占め一頭に付農家戸數二戸に當り、馬、豚等之に亞ぐ。今昭和五年の家畜頭數を示せば、

（昭和五年）

	總數	牝	牡
牛	九八、九〇八	八一、〇〇七	一七、九〇一
馬	九、一〇九	二、七一八	六、三九一
豚	六、九一三	四、二九四	二、六一九
山羊	三二五	二八〇	四五
緬羊	一四	九	五